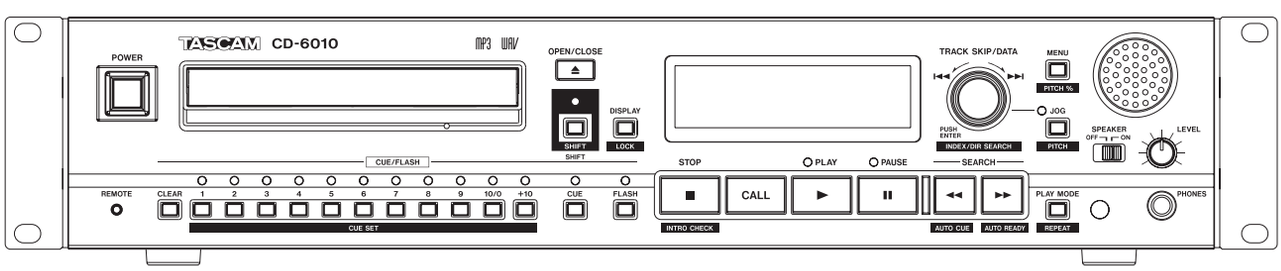
TASCAM

D01168501A

CD-6010

CD Player

取扱説明書



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠ **警告**	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
 電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。
 禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)に交換をご依頼ください。
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(20cm以上)離して置く **ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上(5cm以上)、背面から10cm以上の隙間をあける** 隙間をあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
 指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的(年１回くらい)に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
 分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (巻末に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

⚠ **注意**	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**
 電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す** コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入は、漏電や感電の原因となることがあります。
 指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のコードを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
 禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
 禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。
 注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

電池の取り扱いについて

本機は、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れ等を避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

警告 乾電池に関する警告	
禁止	**乾電池は絶対に充電しない** 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

警告 電池に関する警告	
強制	**電池を入れるときは、極性表示(プラスとマイナスの向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しくいれる** 間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液がもれて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
禁止	**指定以外の電池は使用しない** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない** 破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	金属製の小物類に携帯、保管しない ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
	加熱したり、火や水の中に入れない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	**分解しない** 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

目次

安全にお使いいただくために 2
電池の取り扱いについて 4

第1章　はじめに 6
本機の概要 6
本製品の構成 6
本書の表記 7
商標に関して 7
設置上の注意 7
電源について 7
結露について 7
製品のお手入れ 7
CD（コンパクトディスク）について 8
取り扱い上の注意 8
アフターサービス 8

第2章　各部の名称と働き 9
フロントパネル 9
リアパネル 11
ディスプレー 12
ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-500） 13

第3章　準備 15
接続する 15
リモコンを準備する 16
乾電池の入れ方 16
乾電池の交換時期 16
乾電池についての注意 16
リモコン使用上の注意 16
リモコンの受信の設定 16
パネルロック機能 16

第4章　メニュー操作 17
メニューの構成 17
メニュー操作の基本 17

第5章　再生する 18
再生可能なディスクについて 18
データCDのディレクトリとトラックについて 18
ディスクをセットする 19
ディスクを挿入する 19
ディスクを取り出す 19
トレーロック機能 19
再生する 19
トラックを選ぶ 20
前後のトラックにスキップする 20
トラック番号を指定する 20
インデックス／ディレクトリを選ぶ 20
SEARCHボタンを使ってサーチする 21
ジョグ機能を使ってサーチする 21
再生モード 21
再生モードを選択する 21

第6章　さまざまな再生機能 22
オートキュー機能 22
オートキューレベルの設定 22
オートレディ機能 22
レジューム機能 22
コール機能 23
キュー機能 23
キューポイントを登録する 23
キューポイントを呼び出す 23
キューポイントを消去する 23
インクリメンタルプレー機能 23
リピート再生 24
通常のリピート再生 24
A-Bリピート再生 24
イントロチェック機能 24
パワーオンプレーをする 25
ピッチコントロール再生 25
ピッチステップの設定 25
キーオリジナル機能(音程を変えずに再生スピードを変える) 26
プログラム再生 26
プログラムを設定する 26
プログラムを確認する 26
プログラムを編集する 27
フェードイン／フェードアウト再生 28
スキップバック再生 28
スキップバック時間の設定 28
フラッシュスタート機能 28
リレー再生 29

第7章　その他の機能 30
再生時間表示モードを切り換える 30
フレーム時間表示の設定 30
トラックの終了を予告表示する（TRACK EOM） 30
ディスクの終了を予告する（DISC EOM） 30
インターバルタイムの設定 31
モノラルで出力する 31
フットスイッチによるコントロール 31
フットスイッチを設定する 31
フットスイッチを使う 31
各MODEの詳細 31
ダイレクト再生リモコンによるコントロール 31
フェーダースタート／イベントスタート 32
フェーダースタート／ストップ 32
イベントスタート 32
RS-232C端子を使う 32
ボーレートの設定 32
出荷時の設定に戻す 32
ファームウェアバージョンを確認する 33
デジタル出力フォーマットの設定 33
アナログ出力のアッテネーション 33
パラレル端子を使う 33

第8章　トラブルシューシング 34

第9章　エラーメッセージ一覧 35

第10章　仕様 36
定格 36
アナログオーディオ出力定格 36
デジタルオーディオ出力定格 36
コントロール入出力定格 36
オーディオ性能 36
バックアップメモリー 36
一般 37
寸法図 37

第 1 章　はじめに

このたびは、TASCAM CD Player CD-6010をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（**http://tascam.jp/**）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- 振動などによる音飛びを回避するアンチショックメモリーを搭載
- ±16%のピッチコントロール機能
- 市販のオーディオCDのほか、CD-Rディスクのオーディオ再生が可能。また、MP3およびWAV ファイルの再生に対応
- 1フレーム単位の正確な頭出しが可能
- 外部パラレルコントロール端子を装備
- パラレル端子は、フェーダースタート、イベントスタートを含むトランスポートモードと、フラッシュスタート／ダイレクトスタートが可能なモードを選択して使用可能
- 外部のパソコンやコントローラーからのコントロール用のシリアル（RS-232C）端子を装備
- 最大ディスク100枚分のプログラムと キューポイントをメモリーに登録可能
- インクリメンタルプレー機能搭載
- オートレディ機能により、トラック再生後に次のトラックの頭での自動待機が可能
- オートキュー機能により、トラックの音声立ち上がりポイントでの待機が可能
- フットスイッチ（TASCAM RC-3F：別売り）によるトランスポートやピッチのコントロールに対応
- TASCAM RC-SS20（パラレル端子接続：別売り）やTASCAM RC-20（リモート端子接続：別売り）によるダイレクトスタートやフラッシュスタート（ポン出し）に対応
- 遅延なく再生を開始するフラッシュスタート機能搭載（最大20ポイント - トラック1 ～ 20、プログラム登録した曲、またはキューポイント）
- トラック選択、キューポイント操作、およびフラッシュスタートに使用可能な数字ボタンを本体フロントパネルに装備
- 再生中に数秒前（設定可能）に戻るスキップバック機能搭載
- ワイヤレスリモコン付属（TASCAM RC-500、本体設定で無効に設定可能）
- 再生時のトラック間隔を設定可能
- 内部調整によるバランス出力のレベル調整が可能（カスタマーサポートまでお問合せください）
- アナログ出力のアッテネーション機能を搭載
- 誤動作防止用にパネル上のボタンをロックする機能を搭載
- トレーロック機能により、再生／一時停止中のトレーオープン操作を禁止可能
- トレー式高性能CDドライブ搭載
- RCAアンバランス出力
- コアキシャル（同軸）デジタル出力
- XLR バランス出力
- XLR デジタル出力
- モノラル出力が可能
- 全曲（ALL）、一曲（SINGLE）、プログラム（最大100曲）、ランダムの再生モード
- 各再生モード、及びA-B間のリピート機能
- トラック経過時間、トラック残り時間、ディスク残り時間を切換えて表示可能
- 最後に再生を開始したポイントに戻るCALL機能を搭載
- イントロチェック機能搭載
- 0 ～ 10秒（0.5秒単位）で設定可能なフェードイン／フェードアウト機能搭載
- パワーオン再生機能搭載
- 複数台でのリレー再生が可能
- インデックスサーチ機能（オーディオCD：CD-DAのみ）およびディレクトリーサーチ機能（MP3またはWAVファイルを記録したディスクのみ）
- 最後に再生を停止したポイントを記憶するレジューム機能を搭載
- トラックの終了を予告表示するEOM表示対応
- フロントパネルにモニター用のヘッドホン端子、スピーカー、レベルつまみ、オン／オフスイッチを装備

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- 電源コード　x1
- ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-500）　x1
- 単4形乾電池　x2
- ラックマウントビスキット　x1
- 保証書　x1
- 取扱説明書（本書）　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**SHIFT**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **“TRACK”** のように **“_”** で括って表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。
- MP3オーディオファイルやWAVオーディオファイルを記録したCDを「データCD」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標に関して

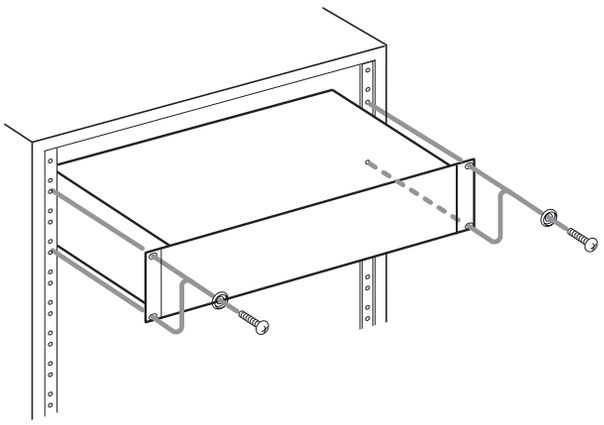
- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないてください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所
  窓際などの直射日光が当たる場所
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  極端に温度が低い場所
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  ほこりの多い場所

- 本製品は、±15度まで傾斜して設置可能です。
- 放熱を良くするために、本製品の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本製品を置かないでください。
- 本製品をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスを使って、下図のように取り付けてください。
  なお、ラック内部では、本製品の上に1U以上（5cm以上）のスペースを開けてください。



電源について

- 付属の電源コードを**AC IN**端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V（50-60Hz）以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

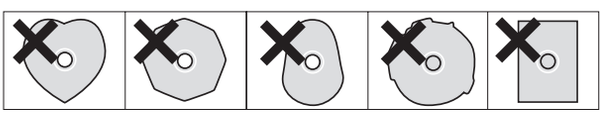
製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

CD（コンパクトディスク）について

本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD（CD-DA）形式で記録したCD-Rディスク、MP3オーディオファイルおよびWAVオーディオファイルを記録したCD-Rディスクを再生することができます。

取り扱い上の注意

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは、絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本製品にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは、使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。

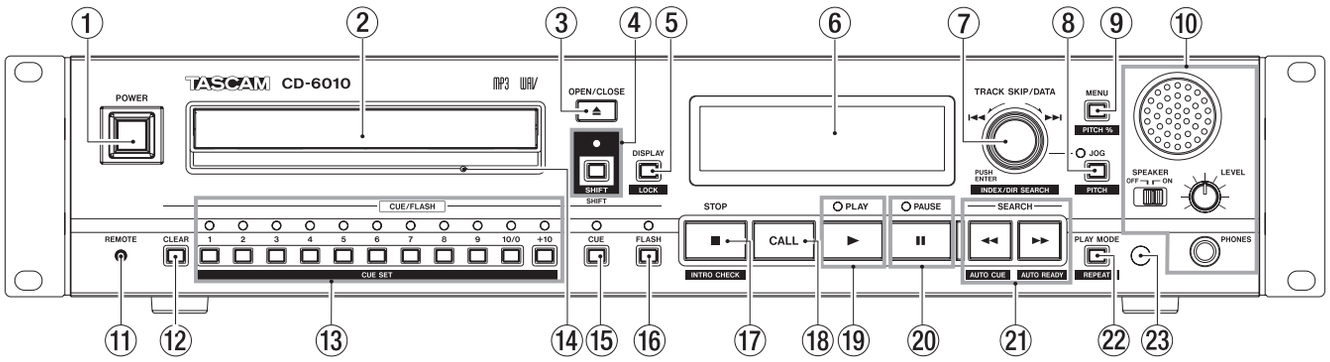


- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらは、CD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししてますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合の故障および損傷は有償になります。その他の詳細につきましては、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番（CD-6010）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

フロントパネル



① POWERスイッチ
電源のオン／オフを行います。

注意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

② ディスクトレー
OPEN/CLOSEボタンを押してディスクトレーを開け、ディスクのセット/取り出しを行います。
ディスクトレーを閉じるときはOPEN/CLOSEボタンを押します。

③ OPEN/CLOSEボタン
ディスクトレーを開閉します。

④ SHIFT ボタン／インジケーター
このボタンを押してインジケーターを点灯させるとシフトモードになり、シフト機能（各ボタンの下に灰地に白抜き文字で表示）を持つ他のボタンの働きがシフト機能になります。この後シフト機能を持つ他のボタンを操作すると、シフトモードは自動的に解除され、インジケーターは消灯します。

注意

- シフトモードのときに再度SHIFTボタンを押すと、シフトモードを解除（SHIFTインジケーター消灯）できます。フォルダ／ディレクトリサーチ操作後にSHIFTインジケーターが点灯している場合はSHIFTボタンを押してシフトモードを解除してください。
- SHIFTボタンを押しながら、シフト機能を持つ他のボタンを押すことでもシフト機能が働きます。

⑤ DISPLAY [LOCK] ボタン
再生時間表示中にこのボタンを押すと、再生時間表示モード（トラック経過時間、トラック残時間、または総残時間）が切り換わります。（ → 30ページ「再生時間表示モードを切り換える」）
また、メニューモードのときにこのボタンを押すと、メニューモードを終了します。
シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のときにこのボタンを長押しするか、SHIFTボタンを押しながらこのボタンを長押しすると、パネルロック機能（誤操作防止のために、ボタン操作を受け付けなくする機能）をオン／オフします。

⑥ ディスプレー
各種情報を表示します。

⑦ TRACK SKIP/DATA ⏮ ／ ⏭ [INDEX/DIR SEARCH] つまみ
このつまみは、ダイヤルとスイッチ機能を持つマルチ機能つまみです。このつまみを使って、トラック選択（スキップ）、インデックス選択、ディレクトリ選択、ピッチコントロールの値設定、メニュー操作、ジョグ操作、A-Bリピート区間の設定などを行うことができます。
シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のとき、またはSHIFTボタンを押しながら操作したときは、インデックス選択を行います。ただし、データCDをセットしているときには、ディレクトリ選択を行います。
オートキュー機能の設定により、選択後の動作が変わります。（ → 20ページ「前後のトラックにスキップする」）
また、プログラム設定モードのときは、トラックを選択します。
メニューモード中、このつまみを回して選択を行い、このつまみを押して選択を確定します。（ → 17ページ「メニュー操作の基本」）
ピッチ値調整モードのときは、このつまみを回してピッチ値を調整します。（→ 25ページ「ピッチコントロール再生」）
ジョグモードのときは、このつまみがジョグつまみとして機能し、フレーム単位のジョグサーチができます。（ → 21ページ「ジョグ機能を使ってサーチする」）
また、A-Bリピートモードのときにこのつまみを押して、A点、B点を設定します。（ → 24ページ「A-Bリピート再生」）

⑧ JOG [PITCH] ボタン
このボタンを押すと、ジョグモードになります。（ → 21ページ「ジョグ機能を使ってサーチする」）
シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のとき、またはSHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、ピッチ機能のオン／オフを切り換えます。（ → 25ページ「ピッチコントロール再生」）

⑨ MENU [PITCH %] ボタン
このボタンを押すと、メニューモードになります。またメニューモードのときにこのボタンを押すと、メニューモードを終了します。（ → 17ページ「メニュー操作の基本」）
シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のとき、またはSHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、ピッチ値調整モードになります。（ → 25ページ「ピッチコントロール再生」）

⑩ SPEAKER スイッチ／内蔵スピーカー／ LEVELつまみ ／ PHONES端子

本機は、外部スピーカーなしでも、内蔵モノラルスピーカー、またはステレオヘッドホンを使用して音を聴くことができます。

SPEAKERスイッチで内蔵モノラルスピーカー出力のオン／オフを切り換えます。

ヘッドホンを接続しているときは、このスイッチに関わらず内蔵スピーカーからは出力されません。

PHONES端子は、ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ホンジャックです。

LEVELつまみで内蔵スピーカー、またはヘッドホンの音量を調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑪ REMOTE端子（φ2.5mm TRSジャック）

別売りの専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）、または専用ダイレクト再生リモコン（TASCAM RC-20）を繋ぎます。

リモートコントロールによる各種再生、停止、フラッシュスタートなどの操作が可能になります。

⑫ CLEARボタン

数字ボタンを使って入力した値をクリアします。

プログラムメニュー中に長押しすると、全てのプログラムを削除します。

キューモードがオンのとき、**CLEAR**ボタンを押しながら数字ボタンを操作するとキューポイントを消去できます。

⑬ 数字ボタン

数字ボタンを使ってトラック番号を指定して選曲することができます。オーディオCDの場合は2桁、データCDの場合は3桁で入力します。（→ 20ページ「トラック番号を指定する」）

キューモードがオンのとき、数字ボタンを使ってキューポイントの登録／呼び出し／消去ができます。（最大20ポイント → 23ページ キュー機能）

フラッシュスタート機能がオンのとき、数字ボタンを使ってトラックまたは キューポイントのフラッシュスタートができます。

+10 ボタンで、フラッシュスタートのプログラム番号、トラック番号、またはキュー番号について、1-10 ／ 11-20の切り換えを行います。

⑭ 強制イジェクト用穴

トレーが出てこなくなった非常時、この穴に棒などの細いものを入れて押すとトレーが出ます。

注意

強制イジェクト用穴を使用するときは、必ず本体の電源を切ってください。

⑮ CUEボタン

キューモードのオン／オフを設定します。

⑯ FLASHボタン

フラッシュスタート機能のオン／オフを設定します。

⑰ ■【STOP】[INTRO CHECK] ボタン

再生を停止します。

インクリメンタルプレー機能がオンの場合、再生中にこのボタンを押すと、次のトラックの先頭で一時停止します。

停止中にシフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）にし、このボタンを押すと（もしくは**SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを押す）、イントロチェックモードになります。

イントロチェックモードのときに ►【PLAY】ボタンを押すと、各トラックの先頭を10秒ずつ次々と再生します。（→ 24ページ「イントロチェック機能」）

⑱ CALLボタン

このボタンを押すと、最後に再生を開始したポイントに戻って一時停止します。

⑲ ►【PLAY】ボタン／インジケーター

停止中にこのボタンを押すと再生を開始します。（インジケーター点灯）

一時停止中にこのボタンを押すと再生を再開します。

再生中にこのボタンを押すと、あらかじめ設定した時間だけ戻って再生します。（→ 28ページ「スキップバック再生」）

⑳ ❚❚【PAUSE】ボタン／インジケーター

再生中に押すと一時停止します。（インジケーター点灯）

停止中に押すと、オートキュー機能がオンのときはトラック1の音声立ち上がりポイントで一時停止、オートキュー機能がオフのときはトラック1の先頭で一時停止します。

㉑ SEARCH ◄◄ ／ ►► [AUTO CUE ／ AUTO READY] ボタン

再生中または一時停止中に、 ◄◄ボタンを押すと早戻しサーチ、►► ボタンを押すと早送りサーチを行います。

（→ 21ページ「SEARCHボタンを使ってサーチする」）

プログラム設定モードのときは、プログラム番号を選択します。

（→ 26ページ「プログラム再生」）

シフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）のときに ◄◄ ボタンを押すか、**SHIFT**ボタンを押しながら ◄◄ボタンを押すと、オートキュー機能のオン／オフを設定します。

（→ 22ページ「オートキュー機能」）

シフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）のときに►► ボタンを押すか、**SHIFT**ボタンを押しながら►► を押すと、オートレディ機能のオン／オフを設定できます。

（→ 22ページ「オートレディ機能」）

㉒ PLAY MODE [REPEAT] ボタン

このボタンを押すと、再生モード（通常再生、シングル再生、プログラム再生、ランダム再生）が切り換わります。（→ 21ページ「再生モード」）

→ 通常再生 → シングル再生 → プログラム再生 → ランダム再生

シフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）のとき、または**SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを押すと、リピート再生機能のオン／オフを切り換えます。（→ 24ページ「通常のリピート再生」）

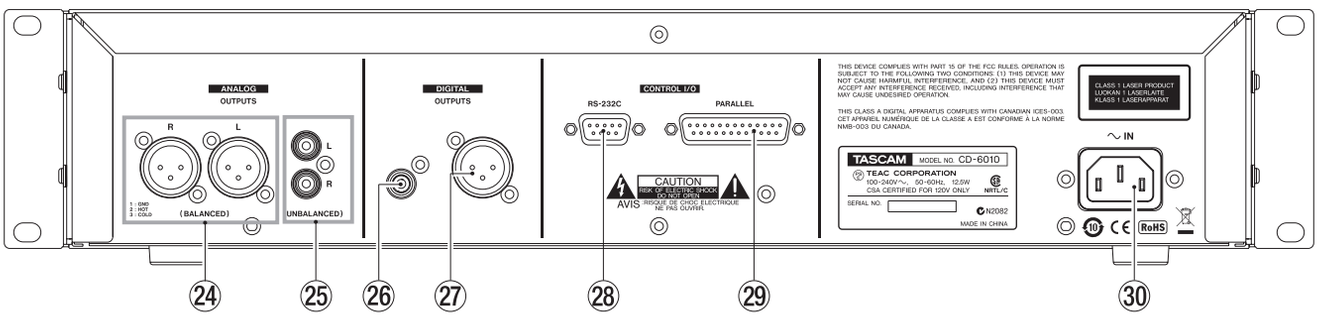
また、再生中または一時停止中に、シフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）のときにこのボタンを1秒以上押し続ける（もしくは**SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを1秒以上押し続ける）と、A-Bリピート機能がオンになります。（→ 24ページ「A-Bリピート再生」）

㉓ リモコン受光部

付属のワイヤレスリモコン（TASCAM RC-500）の信号を受信します。

リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

リアパネル



㉔ ANALOG OUTPUTS（BALANCED）端子

CDの再生信号をアナログバランス出力します。

最大出力レベルは、+24dBuです（1：GND、2：HOT、3：COLD）。

メモ

アナログバランス出力の最大出力レベルは内部調整により変更することができます。カスタマーサポートまでお問合せください。

㉕ ANALOG OUTPUTS（UNBALANCED）端子

CDの再生信号をアナログ出力します。

最大出力レベルは、+6dBVです。

㉖ DIGITAL OUTPUTS端子（COAXIAL）

CDの再生信号をデジタル出力します。出力する信号のフォーマットはメニュー番号 **“22 D-OUT”** で設定します。（ → 33ページ「デジタル出力フォーマットの設定」）

注意

- MP3やWAVファイル再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は44.1kHzとなります。
- オーディオCD、MP3、WAVファイル再生時、ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、サンプリング周波数は44.1kHzに固定されます。

㉗ DIGITAL OUTPUTS端子（XLR）

CDの再生信号をデジタル出力します。出力する信号のフォーマットはメニュー番号 **“22 D-OUT”** で設定します。（ → 33ページ「デジタル出力フォーマットの設定」）

㉘ CONTROL I/O RS-232C端子

D-sub 9ピンのRS-232Cシリアルコントロール端子です。外部コントローラーなどを接続します。（ → 32ページ「RS-232C端子を使う」）

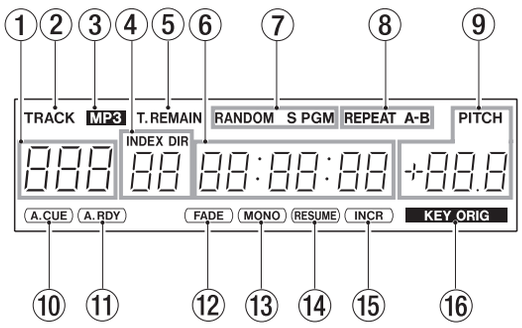
㉙ CONTROL I/O PARALLEL端子

D-sub 25ピンのパラレルコントロール端子です。外部コントローラーなどを接続します。（ → 29ページ「リレー再生」）、（ → 32ページ「フェーダースタート／ストップ」）、（ → 33ページ「パラレル端子を使う」）

㉚ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

ディスプレー



① トラック番号表示部

再生中／選択中のトラック番号を表示します。
オーディオCDがセットされているときは2桁、データCDがセットされているときは3桁のトラック番号を表示します。
メニューモードのときは、メニュー番号を表示します。

② TRACK表示

ディスクがセットされていると点灯します。

③ MP3表示

データCDをセットすると点灯します。

④ INDEX DIR表示部

再生中／選択中のインデックス番号（オーディオCD）またはディレクトリ番号（データCD）を表示します。

⑤ 再生時間表示モード表示部

時間表示部が再生時間を表示中、時間表示モードに応じて、以下のように点灯します。（→ 30ページ「再生時間表示モードを切り換える」）

- 再生時間表示モードが総残時間のとき、**“T. REMAIN”** が点灯します。
- 再生時間表示モードがトラック残時間のとき、**“REMAIN”** が点灯します。
- 再生時間表示モードがトラック経過時間のとき、消灯します。
メニューモード、プログラム設定モードのときは消灯します。

⑥ 時間表示部

現在の再生位置の時間情報を表示します。
メニューモードのときは、メニュー項目名を表示します。
メニュー項目表示では、アルファベットが以下のように表示されます。

ABCDEFGHIJKLM NOPQRSTUVWXYZcginor

⑦ 再生モード表示部

現在の再生モードを点灯します。

- 通常（全曲）再生モード中　：無点灯
- シングル再生モード中　：**“S”** 点灯
- プログラム再生モード中　：**“PGM”** 点灯
- ランダム再生モード中　：**“RANDOM”** 点灯

⑧ リピートモード表示部

リピートモードを表示します。（→ 24ページ「リピート再生」）、（→ 24ページ「A-Bリピート再生」）

- リピートモード時：**“REPEAT”** 点灯
- A-Bリピートモード時：**“REPEAT”** および **“A-B”** 点灯
（ただしA、Bポイント設定前は、状態に応じて点灯状況が変化します。詳しくは、「A-Bリピート再生」をご覧ください）

⑨ PITCH表示部（ピッチコントロール）

ピッチコントロール機能がオンのとき、**“PITCH”** が点灯し、スピード変化値が表示されます。（→ 25ページ「ピッチコントロール再生」）
メニューモードのときは、各メニュー項目の設定値を表示します。

⑩ A.CUE表示（オートキュー）

オートキュー機能がオンのとき、**“A. CUE ”** が点灯します。
（→22ページ「オートキュー機能」）

⑪ A.RDY表示（オートレディ）

オートレディ機能がオンのとき、**“A. RDY”** が点灯します。
（→ 22ページ「オートレディ機能」）

⑫ FADE表示（フェード）

フェードイン／アウト機能がオンのとき、**“FADE”** が点灯します。（→ 28ページ「フェードイン／フェードアウト再生」）

⑬ MONO表示（モノラル）

モノラル出力機能がオンのとき、**“MONO”** が点灯します。
（→ 31ページ「モノラルで出力する」）

⑭ RESUME表示（レジューム）

レジューム機能がオンのとき、**“RESUME”** が点灯します。
（→ 22ページ「レジューム機能」）

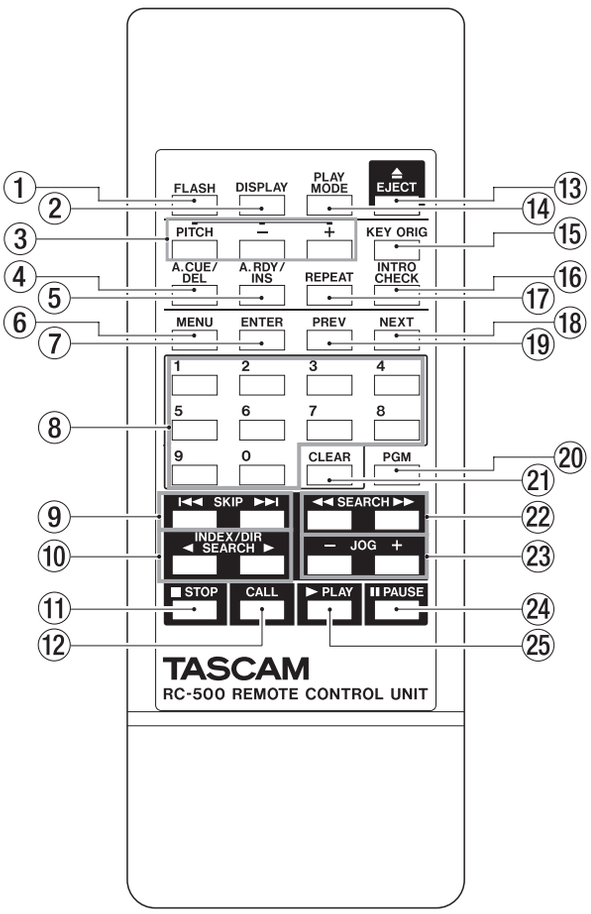
⑮ INCR表示（インクリメンタルプレー）

インクリメンタルプレー機能がオンのとき、**“INCR”** が点灯します。（→ 23ページ「インクリメンタルプレー機能」）

⑯ KEY ORIG表示（キーオリジナル）

キーオリジナル機能がオンのとき、**“KEY ORIG”** が点灯します。
（→ 26ページ「キーオリジナル（音程を変えずに再生スピードを変える）」）

ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-500）



① FLASHボタン
フラッシュスタート機能のオン／オフを設定します。

② DISPLAYボタン
再生時間表示中にこのボタンを押すと、再生時間表示モード（トラック経過時間、トラック残時間、または総残時間）が切り換わります。（ → 30ページ「再生時間表示モードを切り換える」）
また、メニューモードのときにこのボタンを押すと、メニューモードを終了します。

③ PITCHボタン、－／＋ボタン
PITCHボタンを使ってピッチコントロール機能のオン／オフを切り換えます。
－／＋ボタンを使ってピッチコントロールの値を設定します。
（ → 25ページ「ピッチコントロール再生」）

④ A.CUE/DELボタン
オートキュー機能のオン／オフ設定を行います。（ → 22ページ「オートキュー機能」）
また、プログラムトラックを削除するときに使います。（ → 26ページ「プログラム再生」）

⑤ A.RDY/INSボタン
オートレディ機能のオン／オフを切り換えます。（ → 22ページ「オートレディ機能」）
また、プログラムトラックを追加するときに使います。（ → 26ページ「プログラム再生」）

⑥ MENUボタン
このボタンを押すとメニューモードに入ります。
メニューモードのときにこのボタンを押すと、メニューモードを終了します。（ → 17ページ「メニュー操作の基本」）

⑦ ENTERボタン
メニューモードのとき、選択したメニュー項目や設定値を確定するときに押します。（ → 17ページ「メニュー操作の基本」）
また、A-Bリピートモードのときにこのボタンを押して、A点、B点を設定します。（ → 24ページ「A-Bリピート再生」）

⑧ 数字ボタン
数字ボタンを使ってトラック番号を指定して選曲することができます。オーディオCDの場合は2桁、データCDの場合は3桁で入力します。（ → 20ページ「トラック番号を指定する」）

⑨ SKIP（I◄◄ ／ ►►I）ボタン
トラック選択（スキップ）を行います。
オートキュー機能の設定により、選択後の動作が異なります。
（ → 20ページ「前後のトラックにスキップする」）
また、プログラム設定モードのときは、プログラムトラックを選択します。（ → 26ページ「プログラム再生」）

⑩ INDEX/DIR SEARCH（◄ ／ ►）ボタン
オーディオCDのインデックス選択、データCDのディレクトリ選択を行います。オートキュー機能の設定により、選択後の動作が異なります。（ → 20ページ「インデックス／ディレクトリを選ぶ」）

⑪ ■ STOPボタン
再生を停止します。
インクリメンタルプレー機能がオンの場合に、再生中にこのボタンを押すと、次のトラックで一時停止します。（ → 23ページ「インクリメンタルプレー機能」）

⑫ CALL ボタン
再生中または一時停止中にこのボタンを押すと、最後に再生を開始したポイントに戻って一時停止します。（ → 23ページ「コール機能」）

⑬ EJECTボタン
ディスクトレーを開閉するときに押します。

⑭ PLAY MODEボタン
再生モードを切り換えます。通常（全曲）再生モード、シングル再生モード、プログラム再生モード、ランダム再生モードの中から選択できます。

→通常再生→ シングル再生 → プログラム再生 → ランダム再生

⑮ KEY ORIGボタン
再生スピードを変えても音の高さが変わらないキーオリジナル機能のオン／オフを切り換えます。（ → 26ページ「キーオリジナル（音程を変えずに再生スピードを変える）」）

⑯ INTRO CHECKボタン

停止中／再生中／一時停止中にこのボタンを押すと、イントロチェックモードになります。
イントロチェックモードのときに ► PLAYボタンを押すと、各トラックの先頭を10秒ずつ次々と再生します。（ → 24ページ「イントロチェック機能」）

⑰ REPEATボタン

リピート再生機能のオン／オフを切り換えます。（ → 24ページ「リピート再生」）
また、1秒以上押し続けると、A-Bリピート機能がオンになります。（ → 24ページ「A-Bリピート再生」）

⑱ NEXTボタン

メニューモードのとき、次の選択値（メニュー項目または設定値）を選びます。（ → 17ページ「メニュー操作の基本」）

⑲ PREVボタン

メニューモードのとき、手前の選択値（メニュー項目または設定値）を選びます。（ → 17ページ「メニュー操作の基本」）

⑳ PGMボタン

このボタンを押すとプログラム設定モードになります。（ → 26ページ「プログラム再生」）

㉑ CLEARボタン

数字ボタンを使って入力した値をクリアします。
プログラムメニュー中に長押しすると、プログラムを削除します。

注意

本体の CLEARボタンと違い、CLEARボタンを押しながら数字ボタンを押す操作（キューポイントの消去）はワイヤレスリモコンでは行えません。

㉒ SEARCH（◄◄ ／ ►►）ボタン

再生中または一時停止中に、◄◄ボタンを押すと早戻しサーチ、►► ボタンを押すと早送りサーチを行います。（ → 21ページ「SEARCHボタンを使ってサーチする」）
プログラム設定モードのときは、プログラム番号を選択します。（ → 26ページ「プログラム再生」）

㉓ JOG（−／ +）ボタン

一時停止中にJOG ボタン（+ボタンまたは−ボタン）を押すとジョグモードになります。+ボタンを押すと1フレーム進み、−ボタンを押すと1フレーム戻ります。（ → 21ページ「ジョグ機能を使ってサーチする」）

㉔ II PAUSEボタン

再生中に押すと一時停止します。
停止中に押すと、オートキュー機能がオンのときはトラック1の音声立ち上がりポイントで一時停止、オートキュー機能がオフのときはトラック1の先頭で一時停止します。

㉕ ► PLAYボタン

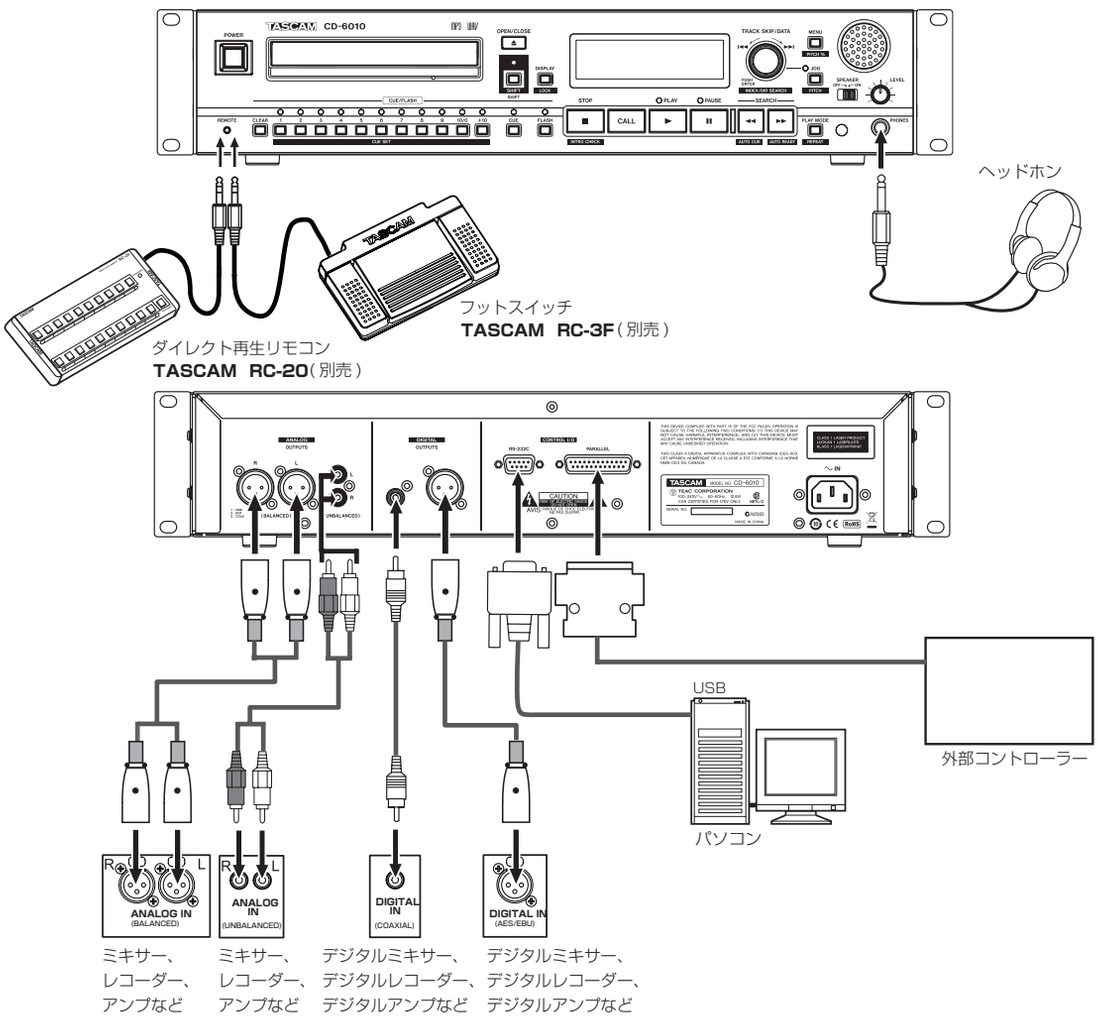
停止中に押すと再生を開始します。
一時停止中に押すと再生を再開します。
インクリメンタルプレー機能の設定がオンのときに、再生中にこのボタンを押すと次の曲の再生を始めます。
インクリメンタルプレー機能の設定がオフのとき、再生中にこのボタンを押すとスキップバック再生になります。

接続する

以下に、CD-6010の接続例を示します。

接続前の注意

- 接続を行う前に、外部機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。
- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。



フットスイッチの接続

REMOTE端子に別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を使って、本機を操作することができます。（ → 31ページ「フットスイッチによるコントロール」）

ダイレクト再生リモコンの接続

REMOTE端子に別売の専用ダイレクト再生リモコン（TASCAM RC-20）を接続して、本機を操作することができます。（ → 31ページ「ダイレクト再生リモコンによるコントロール」）

ヘッドホンの接続

PHONES端子にステレオヘッドホンを接続します。ボリュームは**PHONES**端子のすぐ上の**PHONES**つまみで調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

パソコン

本機の**RS-232C**端子とパソコンのRS-232C端子を接続することによって、パソコンから本機をシリアル制御することができます。接続後、本機の通信設定を正しく行います。（ → 32ページ「RS-232C端子を使う」）

デジタルオーディオ機器との接続

デジタルのステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどを本機のデジタル出力端子に接続します。

アナログオーディオ機器との接続

アナログのステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどを本機のアナログライン出力端子に接続します。

メモ

- 本機には、ケーブルを付属していません。
- ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因となります。

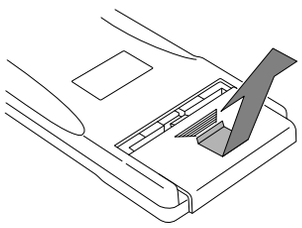
パラレル制御のコントローラー

外部のコントローラーからCD-6010をパラレル制御するときには、**CONTROL I/O PARALLEL**端子（D-Sub 25pコネクター）を使います。PARALLEL端子のピン配列については、「パラレル端子を使う」（33ページ）をご覧ください。

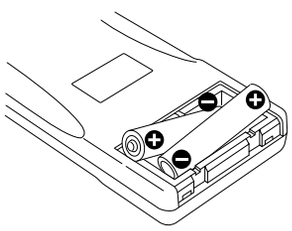
リモコンを準備する

乾電池の入れ方

1. 裏側のふたを開けます。



2. ⊕、⊖ の向きに注意して、単4形乾電池を2本挿入します。



3. ふたを閉めます。

乾電池の交換時期

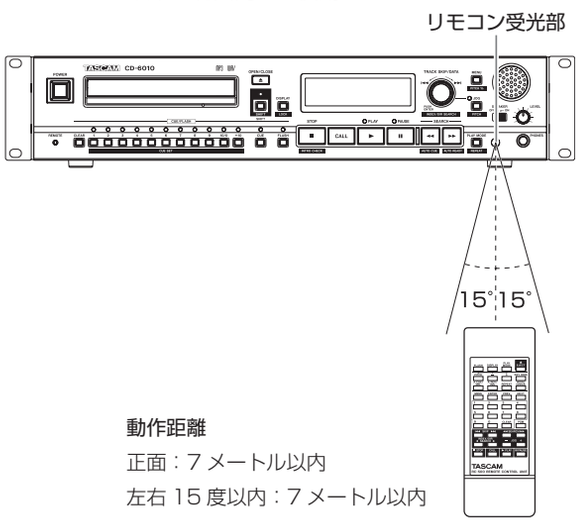
操作範囲が狭くなったり、操作ボタンを押しても動作しない場合は、2本同時に新しい乾電池に交換してください。

乾電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。乾電池の注意表示、および本書4ページをよくお読みください。

リモコン使用上の注意

- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- リモコンは、以下の範囲内でご使用ください。



動作距離

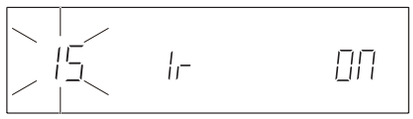
正面：7 メートル以内

左右 15 度以内：7 メートル以内

リモコンの受信の設定

ご操作防止のため、リモコンからの操作を受け付けないように設定することができます。

リモコンからの操作を受け付けるかどうかの設定は、メニュー番号 **“15 IR”** で設定します。（初期値：**“ON”**）



メモ

- リモコンの受信設定が **“OFF”** のときにリモコンの各ボタンを押すと、ディスプレーに **“IR OFF”** と表示されます。
- リモコンの受信設定のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

パネルロック機能

シフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）のときに、**DISPLAY [LOCK]** ボタンを長押しすると、フロントパネルからのボタン操作を受け付けなくするパネルロック機能のオン／オフを設定することができます。**SHIFT**ボタンを押しながら **DISPLAY [LOCK]**ボタンを長押ししても同様に設定できます。

パネルロック中にフロントパネルの各ボタン（**SHIFT**ボタンと **DISPLAY [LOCK]** ボタンを除く）またはリモコンの各ボタンを操作すると、ディスプレーに **“LOCKED”** と表示します。

メモ

- フロントパネルの**REMOTE**端子からのフットスイッチ（TASCAM RC-3F）操作や、ダイレクト再生リモコン（TASCAM RC-20）操作、リアパネルの**RS-232C**端子および**CONTROL I/O PARALLEL**端子からの外部コントロールについては、パネルロック中でも操作を受け付けます。
- パネルロック機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

本機では、メニューシステムを使ってさまざまな設定を行います。なお、メニュー設定項目の中には、リモコンの専用ボタンを使って設定できる項目もあります。

メニューの構成

本機のメニューシステムには、以下のメニュー項目があります。

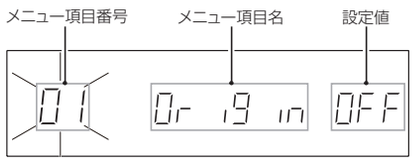
メニュー番号	項目	内容	参照ページ
01	Origin	キーオリジナル機能の設定	26ページ
02	TRAY	トレーロック機能の設定	19ページ
03	A_CUE	オートキューレベルの設定	22ページ
04	Prog	プログラム設定	26ページ
05	FADE	フェードイン／アウト再生の設定	28ページ
06	EOM_D	DISC EOMタイム表示の設定	30ページ
07	P onPL	パワーオンプレー機能の設定	25ページ
08	Mono	モノラル出力の設定	31ページ
09	RESUM	レジューム機能の設定	22ページ
10	EOM_T	TRACK EOM タイム表示の設定	30ページ
11	Inc-P	インクリメンタルプレー機能の設定	23ページ
12	P-STEP	ピッチコントロールのピッチステップ設定	25ページ
13	232C	ボーレートの設定	32ページ
14	S-BAC	スキップバック再生の設定	28ページ
15	IR	リモコンの受信設定	16ページ
16	INTVAL	インターバルタイムの設定	31ページ
17	FRAM	フレーム時間表示の設定	30ページ
18	REMOT	フットスイッチのモード設定	31ページ
19	ATT	アナログ出力のアッテネーションの設定	33ページ
20	RESET	ファクトリープリセット（工場出荷設定）の実行	32ページ
21	INFO	本体ファームのバージョン確認	33ページ
22	D-OUT	デジタル出力フォーマットの設定	33ページ

メニュー操作の基本

メニューシステムを使った設定の基本手順を以下に示します。

1. ディスプレーが通常表示のとき、本体または付属の専用リモコン（TASCAM RC-500）の**MENU**ボタンを押します。

   ディスプレーの中央部の表示がメニュー項目選択表示になります。前回最後に選択したメニュー項目が最初に表示されます。



2. 本体またはリモコンを使って下記の操作を行い、希望のメニュー項目を選択します。

   ● **本体操作の場合：**
   TRACK SKIP / DATAつまみを回す、または数字ボタンを使ってメニュー項目を選択し、**TRACK SKIP / DATA**つまみを押して確定します。

   ● **リモコン操作の場合：**
   PREVボタンと **NEXT**ボタン、または数字ボタンを使ってメニュー項目を選択し、**ENTER**ボタンを押して確定します。

メモ

- 確定する前は、メニュー項目番号が点滅しています。
- 数字ボタンを使ってメニュー項目を選択する場合は、2桁で入力します。たとえば、メニュー番号の **“06”** を選ぶときは、**0**ボタンを押してから**6**ボタンを押します。

以下の手順**3.**は、メニュー番号 **“04 Prog”**、**“20 RESET”**、**“21 INFO”** 以外のメニュー項目の場合です。これらのメニュー項目の操作については、それぞれの説明個所をご覧ください。

3. 希望の設定値を選びます。

   ● **本体操作の場合：**
   TRACK SKIP / DATAつまみを回して選択し、**TRACK SKIP / DATA**つまみを押して設定を確定します。

   ● **リモコン操作の場合：**
   PREVボタンと**NEXT**ボタンを使って選択し、**ENTER**ボタンを押して設定を確定します。

メモ

- 現在の設定と異なる設定値を選んでいるとき、値が点滅します。設定を確定すると、メニュー項目選択の状態に戻ります。
- 設定値の変更を破棄するには、本体またはリモコンの **MENU**ボタンを押します。

4. 必要に応じて2～3の操作を繰り返します。

5. メニューモードを終了するには、メニュー項目選択の状態で**MENU**ボタンを押します。

第５章　再生する

再生可能なディスクについて

本機で、以下のファイル／ディスクを再生することができます。

● CD-DA（オーディオCD）形式のディスク

市販の音楽CDや、オーディオCD形式で作成したCD-Rディスクを再生できます。
本書では、これらのディスクを「オーディオCD」と呼びます。

注意

本機は、ファイナライズされていないCD-Rディスクは読めません。

● CD-ROM（データCD）形式のディスク

記録方式がISO9660 Level1およびLevel2, Jolietで、MP3ファイルやWAVファイルを収録したディスクを再生できます。
本書では、これらのディスクを「データCD」と呼びます。

メモ

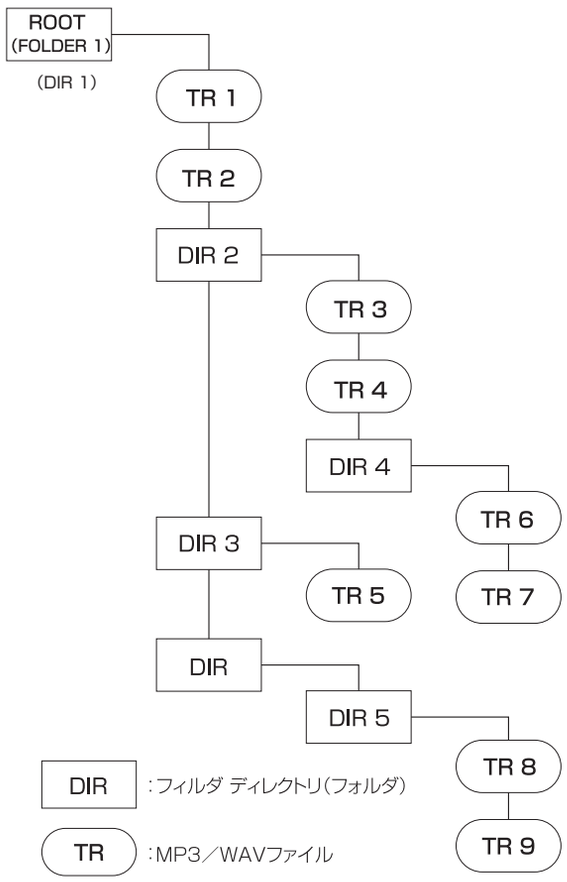
- 再生可能なMP3ファイルは、サンプリング周波数32kHz/44.1kHz/48kHz、ビットレート32kbps～320kbpsのファイルです。VBR (可変ビットレート)のMP3ファイルも再生可能です。
- 再生可能なWAVファイルは、サンプリング周波数32kHz/44.1kHz/48kHz、16bitのファイルです。

注意

- MP3やWAVファイル再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は44.1KHzとなります。ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によって本機のデジタル出力を受信できない場合があります。
- MP3ファイルの認識は、ファイル拡張子「.mp3」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.mp3」を付けてください。拡張子「.mp3」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」がついていても、MP3データ形式でないファイルは再生できません。
- WAVファイルの認識は、ファイル拡張子「.wav」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.wav」を付けてください。拡張子「.wav」のないファイルは、本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.wav」がついていても、WAVデータ形式でないファイルは再生できません。
- 1000以上のファイルまたは255以上のディレクトリが記録されたディスクは、正常に再生できないことがあります。
- ディスクの状態によっては、本機で再生できなかったり、音が途切れることがあります。

データCDのディレクトリとトラックについて

本機は、データCD上の各オーディオファイル（WAVまたはMP3）を「トラック」として扱います。データCDの中には、通常のパソコンのファイルの扱いと同じようにファイルをディレクトリに収納しているものがあります。さらに、いくつかのディレクトリをまとめて1つのディレクトリに収めるといった、複数階層構造のものもあります。
本機では、各ディレクトリにディレクトリ番号を付けて管理します。ディレクトリ番号は、階層の浅いディレクトリから階層の深いディレクトリ（サブディレクトリ）に向かってゆく方向で割り当てられます。データCDのルートにオーディオファイルがある場合は、ルートも1つのディレクトリとして扱います。
また、各オーディオファイルにはトラック番号を付けて管理します。トラック番号は、ディレクトリ番号の若いディレクトリ内のファイルから順に割り当てられます。
データCDを通常再生すると、オーディオCDと同じようにトラック番号順に再生されます。
すぐ下の階層にオーディオファイルが収納されていないディレクトリには、ディレクトリ番号が割り当てられません。たとえば、下図のような構成のディスクの場合は、ディレクトリ5の上の階層のディレクトリには、番号が割り当てられません。



〈データCDの構成例〉

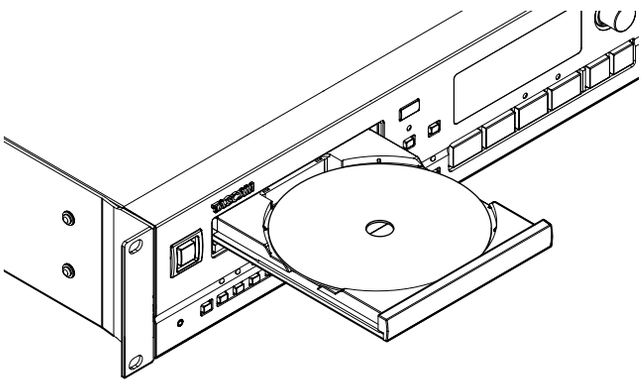
ディスクをセットする

ディスクを挿入する

CDをセットするには、本体の**OPEN/CLOSE**ボタンまたはリモコンの**EJECT**ボタンを押してディスクトレーを開き、ラベル面を上にしてディスクをのせます。
再度**OPEN/CLOSE**ボタンまたは**EJECT**ボタンを押して、ディスクトレーを閉じます。
ディスクをセットすると本機がディスクの情報を読み取り、オーディオCDの場合は総トラック数と総再生時間、データCDの場合はカレントフォルダの総トラック数を、ディスプレーに表示します。

メモ

上記で**OPEN/CLOSE**ボタンや**EJECT**ボタンを押してディスクトレーを閉じる代わりに ► **【PLAY】**ボタンを押すと、ディスクトレーを閉じて再生が始まります。



ディスクを取り出す

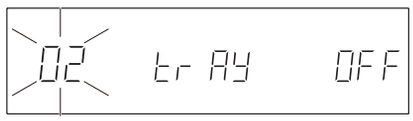
本体の**OPEN / CLOSE**ボタンまたはリモコンの**EJECT**ボタンを押します。
ディスクトレーが開いたら、ディスクを取り出します。

メモ

- 本機はディスクの取り出し時間を短縮する為に、ディスクの回転が完全に停止する前にトレーが開きます。
- **OPEN / CLOSE**ボタンや**EJECT**ボタンは、本体の電源が入っているときに機能します。やむを得ず電源が入っていない状態でディスクを取り出す場合は、トレー下にある穴に棒などの細いものを入れて押し、トレーを開けてください。

トレーロック機能

誤って本体の**OPEN / CLOSE**ボタンやリモコンの**EJECT**ボタンを押して再生を止めてしまうことがないよう、再生中および一時停止中は**OPEN / CLOSE**ボタン操作や**EJECT**ボタン操作を受け付けないようにすることができます。（トレーロック機能）
トレーロック機能をオンにするには、メニュー番号 **“02 TRAY”** を **“LOK”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）



メモ

トレーロック機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

再生する

以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、CD（オーディオCDまたはデータCD）がセットされていることを前提にしています。
CDの再生を始めるには、本体の ► **【PLAY】**ボタンまたはリモコンの ►**PLAY** ボタンを押します。

● 再生を止めるには

本体の ■**【STOP 】[INTRO CHECK]** ボタンまたはリモコンの ■ **STOP**ボタンを押します。

● 再生を一時停止するには

本体の ❚❚**【PAUSE】**ボタンまたはリモコンの ❚❚ **PAUSE** ボタンを押します。
再度、再生を開始するには、本体の ► **【PLAY】**ボタンまたはリモコンの ►**PLAY** ボタンを押します。

なお、この取扱説明書では、特に断らない限り、再生モードが連続再生モードに設定されているものとして説明しています。（ → 21 ページ「再生モード」）

トラックを選ぶ

トラックを選ぶ方法には、前後のトラックに移動する方法（スキップ）と、トラック番号を直接指定する方法があります。

前後のトラックにスキップする

本体のTRACK SKIP / DATA ⏮ ／ ⏭ [INDEX/DIR SEARCH]つまみまたはリモコンのSKIP ⏮ ／ ⏭ボタンを使ってトラックを選択することができます。
選曲後の動作は、オートキュー機能のオン／オフ設定によって異なります。（→ 22ページ「オートキュー機能」）

● 停止中にSKIPボタンを使ってトラックを選択すると

オートキュー機能がオフのときは、トラック選択後にトラックの先頭で一時停止になります。この後、本体の ► 【PLAY】ボタンまたはリモコンの PLAYボタンを押すと再生が始まります。
オートキュー機能がオンのときは、トラック選択後に指定トラックの音の立ち上がりポイントで一時停止になります。この後、本体の ► 【PLAY】ボタンまたはリモコンの ► PLAYボタンを押すと再生が始まります。

● 再生中にSKIPボタンを使ってトラックを選択すると

選択トラックの再生が始まります。

● 一時停止中にSKIPボタンを使ってトラックを選択すると

オートキュー機能がオフのときは、選択トラックの先頭で一時停止になります。
オートキュー機能がオンのときは、選択トラックの音の立ち上がりポイントで再生一時停止になります。

メモ

再生中または一時停止中に⏮ボタンを1回押すと、再生中または一時停止中のトラックの頭にスキップします。ただし、曲の頭から1秒未満で⏮ボタンを押すと、手前のトラックにスキップします。

トラック番号を指定する

本体またはリモコンの数字ボタンを使ってトラック番号を直接指定することができます。

オーディオCDの場合

2桁で指定します。

例：トラック9の場合は、0→9を入力

データCDの場合

3桁で指定します。

例1：トラック105の場合は、1→0→ 5を入力
例2：トラック4の場合は、0→0→4を入力

● 停止中に数字ボタンを使ってトラック番号を指定すると

オートキュー機能がオフのとき、指定トラックの先頭で一時停止になります。この後、本体の ► 【PLAY】ボタンまたはリモコンの PLAYボタンを押すと再生が始まります。
オートキュー機能がオンのとき、指定トラックの音の立ち上がりポイントで一時停止になります。

● 再生中に数字ボタンを使ってトラック番号を指定すると

指定トラックの再生が始まります。

● 一時停止中に数字ボタンを使ってトラック番号を指定すると

オートキュー機能がオフのとき、選択トラックの先頭で一時停止になります。
オートキュー機能がオンのとき、選択トラックの音の立ち上がりポイントで一時停止になります。

インデックス／ディレクトリを選ぶ

オーディオCDのトラックのインデックス、あるいはデータCDのディレクトリを選ぶことができます。

メモ

オーディオCDのインデックスは、トラック内を区切る単位です。したがって、トラックより小さな単位です。
データCDのディレクトリは、MP3およびWAVファイル（＝トラック）が収納されているフォルダです。したがって、トラックより大きな単位です。

以下の操作でインデックス／ディレクトリを選択します。

● 本体操作の場合：

シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のときにTRACK SKIP / DATAつまみを使って選択します。SHIFTボタンを押しながら TRACK SKIP / DATAつまみを操作しても同様に選択できます。

● リモコン操作の場合：

INDEX/DIR SEARCH ◄ ／ ►ボタンを使って選択します。
データCDのディレクトリを選択した場合、自動的ディレクトリ内の1曲目から再生が始まります（オートキュー機能がオンのときは、ディレクトリ内の1曲目で一時停止になります）。
オーディオCDのインデックスを選択した場合は、選択トラックの選択インデックスから再生が始まります（オートキュー機能がオンのときは、指定インデックスの音の立ち上がり位置で一時停止になります）。

SEARCHボタンを使ってサーチする

音声を聞きながらトラック内を早送り／早戻しサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または一時停止にします。
2. 本体のSEARCH ◄◄ ／ ►► [AUTO CUE ／ AUTO READY] ボタンまたはリモコンのSEARCH ◄◄ ／ ►► ボタンを押し続けます。
   早送り／早戻しサーチが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているボタンを離します。
   サーチを始める前の状態（再生または一時停止）に戻ります。

注意

データCDは、サーチ機能が働きません。

ジョグ機能を使ってサーチする

ジョグ機能を使って、フレーム単位のサーチを行うことができます。ただし、データCDではジョグ機能が働きません。

● **本体操作の場合：**

一時停止中、JOGボタンを押すとジョグモードになり、TRACK SKIP / DATAつまみを回すとフレーム単位のジョグサーチができます。

● **リモコン操作の場合：**

一時停止中にJOGボタン（＋ボタンまたはーボタン）を押すとジョグモードになります。ジョグモードのときに＋ボタンを押すと1フレーム進み、ーボタンを押すと1フレーム戻ります。

メモ

ジョグモードのときに操作をやめると一時停止になりますが、現在の位置の音声が連続的に出力されます。

再生モード

本機には、4つの再生モードがあります。
現在選択中の再生モードは、ディスプレーに点灯します。

連続再生モード（初期設定）

ディスプレー上部の再生モード表示部には何も点灯しません。
ディスクのトラックを番号順に再生します。

シングル再生モード

ディスプレー上部の再生モード表示部に **“S”** が点灯します。
選択したトラックを再生し、再生が終わると停止します。

プログラム再生モード

ディスプレー上部の再生モード表示部に **“PGM”** が点灯します。
あらかじめ設定したプログラムの順番に再生します。（ → 26ページ「プログラム再生」）

ランダム再生モード

ディスプレー上部の再生モード表示部に **“RANDOM”** が点灯します。
ディスクのトラックをランダムな順に再生します。

再生モードを選択する

本体または付属の専用リモコン（TASCAM RC-500）を使って下記の操作を行い、希望の以下の方法で再生モードを設定します。

● **本体操作の場合：**

PLAY MODE [REPEAT] ボタンを押します。
PLAY MODE [REPEAT] ボタンを押すたびに、再生モードが切り換わります。

● **リモコン操作の場合：**

PLAY MODEボタンを押します。
PLAY MODEボタンを押すたびに、再生モードが切り換わります。

→ 通常再生 → シングル再生 → プログラム再生 → ランダム再生 ┐

メモ

再生モードの設定は、電源をオフにしても保持されます。

第６章　さまざまな再生機能

本機のさまざまな再生機能を説明します。

オートキュー機能

オートキュー機能をオンにすると、トラックを選択したときに、トラック冒頭の無音部分をスキップしてトラックの実際の「信号」が立ち上がる位置で一時停止します。そのため再生を始めた直後に音が出ます。

メモ

- フラッシュスタート機能で再生するときには、オートキュー機能は働きません。
- オートキュー機能がオンのとき、再生中にトラックを選択した場合は、トラックの立ち上がる位置から再生します。一時停止中にトラックを選択した場合は、立ち上がる位置で一時停止します。

なお、オートキュー機能動作時におけるオーディオ信号検出のスレッショルドレベル（＝オートキューレベル）を設定することができます。すなわち、本機はオートキューレベル以上の信号を「信号」、オートキューレベル以下の信号を「無音」として扱います。
以下の手順で、メニューを使ってオートキュー機能のオン／オフおよびオートキューレベルの設定を行います（メニュー操作に関しての詳細は、「メニュー操作の基本」（17ページ）をご覧ください）。

オートキュー機能のオン／オフ設定

● **本体操作の場合：**

シフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）のときに、**SEARCH ◄◄ [AUTO CUE]** ボタンを押して、オン／オフを切り換えます。**SHIFT**ボタンを押しながら **SEARCH ◄◄ [AUTO CUE]** ボタンを操作しても同様に切り換えられます。

● **リモコン操作の場合：**

A.CUE/DELボタンを押して、オン／オフを切り換えます。

オートキュー機能がオンのとき、ディスプレーの下部に **“A. CUE”** が点灯します。

メモ

オートキュー機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

オートキューレベルの設定

オートキュー機能の動作レベル（オートキューレベル）の設定は、メニュー番号 **“03 A_CUE”** で設定します。

選択肢: “24”（初期値）、**“30”**、**“36”**、**“42”**、**“48”**、**“54”**、**“60”**、**“66”**、**“72”**

それぞれの選択肢の値がオートキューレベル（マイナスdB）を示しています。選択したトラックでオートキューレベル以上の信号が最初に出現するポイントが音声立ち上がりポイントとして認識されます。

メモ

オートキューレベル設定は、電源をオフにしても保持されます。

オートレディ機能

オートレディ機能をオンにすると、トラックの再生が終了した後、次のトラックの先頭で一時停止になります。

メモ

- オートキュー機能もオンになっている場合は、トラックの先頭ではなく、音の立ち上がり位置で一時停止になります。
- フラッシュスタート機能で再生するときには、オートレディ機能は働きません。

オートレディ機能をオン／オフ設定

● **本体操作の場合：**

シフトモード（**SHIFT**インジケーター点灯）のときに、**SEARCH ►► [AUTO READY]** ボタンを押して、オン／オフを切り換えます。**SHIFT**ボタンを押しながら **SEARCH ►► [AUTO READY]** ボタンを操作しても同様に切り換えられます。

● **リモコン操作の場合：**

A.RDY/INSボタンを押して、オン／オフを切り換えます。

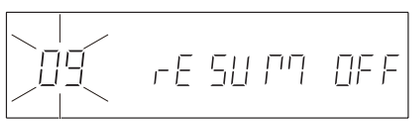
オートレディ機能をオンにすると、ディスプレー下部に **“A. RDY”** が点灯します。

メモ

オートレディ機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

レジューム機能

レジューム機能をオンにすると、再生を停止した位置が記憶され、次に再生を行ったときに、記憶位置から再生が始まります。なお、データCDの場合は、再生を停止したトラックが記憶され、次に再生を行ったときに、そのトラックの先頭から再生が始まります。
レジューム機能のオン／オフは、メニュー番号 **“09 RESUM”** で設定します。（初期値：**“OFF”**）



レジューム機能をオンにすると、ディスプレー下部に **“RESUME”** が点灯します。

メモ

レジューム再生機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

コール機能

再生中または一時停止中に、本体のCALLボタンまたはリモコンのCALLボタンを押すと、最後に再生を開始したポイントに戻って一時停止します。ただしデータCDの場合は、最後に再生を開始したトラックの先頭に戻って一時停止します。

キュー機能

キュー機能を用いて、オーディオCD内の任意の時間を最大20ポイントメモリーし、呼び出すことができます。
キュー機能を使用するには、フロントパネルのCUEボタンを押します。このとき、CUEインジケーターが点灯します。

注意

データCDではキュー機能は使用できません。

メモ

CUEインジケーターが点灯しているとき、本体及びリモコンの数字ボタンは キュー機能となり、トラック番号の指定や曲のフラッシュスタートはできません。これらの機能を使用するには、CUEボタンを押してCUEインジケーターを消灯させてください。

メモ

登録したキューポイントは、電源をオフにしても保持されます。

キューポイントを登録する

再生中または一時停止中に、シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）にした上で本体またはリモコンの数字ボタンを押します。その時の再生地点（ポイント）がボタンに割り当てられます。+10ボタンを押してインジケーターを点灯させた上で数字ボタンを押すと、ポイントは 11 - 20に割り当てられます。
キューポイントを割り当てたボタンはインジケーターが点灯します。

メモ

ポイントの割り当ては、SHIFTボタンを押しながら数字ボタンを押すことでも行えます。

キューポイントを呼び出す

シフトモードを解除（SHIFTインジケーター消灯）した上で キューポイントが割り当てられている（インジケーターが点灯している）数字ボタンを押すと、登録されているポイントで一時停止します。
FLASHインジケーターが点灯しているときは、数字ボタンを押すと登録されているポイントから瞬時に再生を開始します。（28ページ フラッシュスタート機能）

キューポイントを消去する

本体の CLEARボタンを押しながら キューポイントが割り当てられている（インジケーターが点灯している）数字ボタンを押すと、そのボタンに割り当てられていた キューポイントは消去され、インジケーターが消灯します。

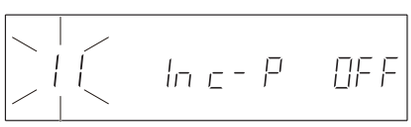
インクリメンタルプレー機能

インクリメンタルプレー機能をオンにすると、再生中に本体またはリモコンの ► PLAYボタンを押したときに次のトラックの先頭から再生を行い、再生中に本体の ■【STOP】[INTRO CHECK] ボタンまたはリモコンの ■ STOPボタンを押したときに次のトラックの先頭で一時停止します。

メモ

- インクリメンタルプレー機能オンのとき、一時停止中に本体またはリモコンの ► PLAYボタンを押すとその位置から再生を開始し、一時停止中に本体の ■【STOP】 [INTRO CHECK] ボタンまたはリモコンの ■ STOPボタンを押すと停止します。なお、最終トラックを再生中に本体またはリモコンの ► PLAYボタンを押すと先頭のトラックから再生を行い、本体の ■【STOP】[INTRO CHECK] ボタンまたはリモコンの ■ STOPボタンを押すと先頭のトラックで一時停止します。
- CONTROL I/O PARALLEL端子の2ピン PLAY INや 3ピン STOP INをオンにした場合も同様です。
- CONTROL I/O PARALLEL端子の8ピン FADERSTART/STOPからストップコマンドを受信した場合も同様です。

インクリメンタルプレー機能のオン／オフは、メニュー番号 **“11 Inc-P”** で設定します。（初期値：**“OFF”**）



インクリメンタルプレー機能をオンにすると、ディスプレー下部に **“INCR”** が点灯します。

メモ

インクリメンタルプレー機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

リピート再生

全トラックを繰り返し再生したり、トラック内の任意の区間を繰り返し再生（A-Bリピート再生）することができます。

通常のリピート再生

リピート再生機能をオンにすると、再生モードによって以下の動作を行います。

- 全曲再生（通常再生）モード中：ディスク全体を繰り返し再生
- シングル再生モード中：現在のトラックを繰り返し再生
- プログラム再生モード中：プログラム全体を繰り返し再生
- ランダム再生モード中：ディスク全体をランダムに繰り返し再生

リピート再生機能をオンにするには、以下の操作のいずれかを行います。

- **本体操作の場合：**

  シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のときに、PLAY MODE [REPEAT] ボタンを押して、ディスプレー上部に **“REPEAT”** を点灯させます。SHIFTボタンを押しながらPLAY MODE [REPEAT] ボタンを操作する方法もあります。

- **リモコン操作の場合：**

  リモコンのREPEATボタンを押して、ディスプレー上部に **“REPEAT”** を点灯させます。

リピート再生を解除するには、以下の操作のいずれかを行います。

- 本体のシフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のときに、PLAY MODE [REPEAT] ボタンを押して、ディスプレー上部の **“REPEAT”** を消灯させます。SHIFTボタンを押しながらPLAY MODE [REPEAT] ボタンを操作する方法もあります。
- リモコンのREPEATボタンを押して、ディスプレー上部の **“REPEAT”** を消灯させます。

メモ

リピート再生の設定は、電源をオフにしても保持されます。

A-Bリピート再生

トラック内の任意の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生することができます。以下の操作でA-Bリピート再生を行います。

1. 再生中または一時停止中に、本体がシフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のときに PLAY MODE [REPEAT] ボタンを長押し、SHIFTボタンを押しながら PLAY MODE [REPEAT] ボタンを長押し、またはリモコンのREPEATボタンを長押しして、ディスプレーの上部に **“REPEAT”** を点滅させます。
   本体をA-Bリピートモードにします。
2. 繰り返し再生したい区間の始点（A点）で、本体のTRACK SKIP / DATAつまみ、またはリモコンのREPEATボタンを押します。
   ディスプレーの上部に **“A-B”** が点滅します。
3. 繰り返し再生したい区間の終点（B点）で、本体のTRACK SKIP / DATAつまみ、またはリモコンのREPEATボタンを押します。
   A-B間の繰り返し再生が始まり、ディスプレーの上部の **“A-B”** が点滅から点灯に変わります。
4. A-Bリピートを解除するには、本体の ■【STOP】[INTRO CHECK] ボタンまたはリモコンの ■ STOPボタンを押します。

注意

データCDでは、A-Bリピートができません。

メモ

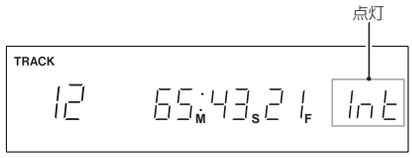
- B点まで再生すると、すぐにA点からの再生が始まります。
- トラックをまたいでのA-Bリピート再生はできません。

イントロチェック機能

イントロチェック機能は、各トラックの頭を10秒間ずつ次々と再生する機能です。
以下の操作でイントロチェックを行います。

- **本体操作の場合：**

1. 停止中、シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のときに ■【STOP】[INTRO CHECK] ボタンを押して、イントロチェックモードにします。SHIFTボタンを押しながらSTOP [INTRO CHECK] ボタンを押す方法もあります。
   ディスプレーの右側に **“INT”** が点灯します。



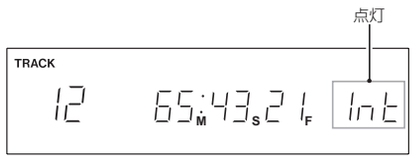
注意

シングル再生モード、ランダム再生モードではイントロチェックモードを選択できません。

2. ►【PLAY】[REPEAT] ボタンを押すと、イントロチェックが始まります。
3. ■【STOP】[INTRO CHECK] ボタンを押すと、再生が停止しイントロチェックモードが解除されます。

- **リモコン操作の場合：**

1. 停止中または一時停止中、リモコンのINTRO CHECKボタンを押して、イントロチェックモードにします。
   ディスプレーの右側に **“INT”** が点灯します。



メモ

再生中の場合は、リモコンのINTRO CHECKボタンを押すと、ディスプレーの右側に **“INT”** が点灯し、次のトラックからイントロチェックが始まります。

2. 停止中または一時停止中の場合は、► PLAY ボタンを押すと、イントロチェックが始まります。

3. ■ STOPボタンを押して停止すると、イントロチェックモードが解除されます。

メモ

INTRO CHECKボタンを押すと、イントロチェックモードが解除され、再生をそのまま続けます。

パワーオンプレーをする

市販のタイマーなどを使って外部から本機に電源を投入することにより、希望のタイミングで本機を再生することができます。

1. あらかじめ、本機の電源をタイマーの電源出力から取るように接続します。

2. 再生するディスクをセットします。

3. メニュー番号 **“07 P onPL”** を **“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）

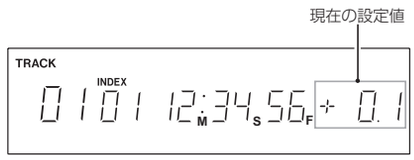
4. 本機のPOWERスイッチをオンの状態のまま、タイマー側で電源をオフにし、希望の時刻にタイマーがオンになるようにセットします。
希望の時刻になると本機の電源が入り、自動的に再生を始めます。

メモ

パワーオンプレー機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

ピッチコントロール再生

本機では、ピッチ（音の高さと再生の速さ）を変えて再生することができます。（ピッチコントロール再生）
ピッチコントロール再生を行うには、以下の操作を行います。
ピッチコントロール機能をオンにすると、ディスプレー右側のPITCH表示部に **“PITCH”** および設定値が表示されます。



● **本体操作の場合：**

シフトモード（SHIFTインジケーター点灯）のときに JOG [PITCH] ボタンを押して、ピッチコントロール機能をオンにします。SHIFTボタンを押しながら JOG [PITCH] ボタンを押す方法もあります。

SHIFTボタンを押した後に MENU [PITCH %] ボタンを押して、ピッチ値設定モードに入り、TRACK SKIP / DATAつまみを回して、−16%〜+16%の範囲で設定します。ピッチ値設定中は現在の設定値が点滅します。SHIFTボタンを押しながら MENU [PITCH %] ボタンを押してピッチ値設定モードに入る方法もあります。

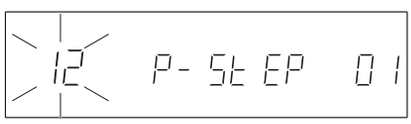
設定後、SHIFTボタンを押した後に MENU [PITCH %] ボタンを押してピッチ値設定モードを抜けます。SHIFTボタンを押しながら MENU [PITCH %] ボタンを押す方法もあります。

● **リモコン操作の場合：**

PITCHボタンを押して、ピッチコントロール機能をオンにします。＋ボタンまたはーボタンを使って、−16%〜+16%の範囲で設定します。

ピッチステップの設定

ピッチコントロール再生の変化ステップ（ピッチステップ）の設定は、メニュー番号 **“12 P-STEP”** にて設定します。



選択肢：“0.1” %（初期値）、**“0.5”** %、**“1.0”** %

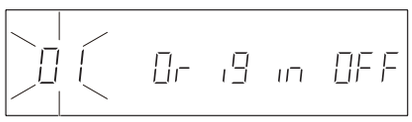
メモ

ピッチステップの設定は、電源をオフにしても保持されます。

キーオリジナル機能（音程を変えずに再生スピードを変える）

ピッチコントロール機能を使って再生スピードを変えたとき、通常はスピードの変化に伴って音程が変化します。
キーオリジナル機能をオンにすると、再生スピードを変えても音程が変化しません。
以下のいずれかの方法によって、キーオリジナル機能のオン／オフを設定します。

- リモコンのKEY ORIGボタンを押します。
- メニュー番号**“01 Origin”**を使って設定します。（初期値：**“OFF”**）



キーオリジナル機能がオンのとき、ディスプレー下部に**“KEY ORIG”**が点灯します。

メモ

キーオリジナル機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

プログラム再生

あらかじめプログラムを設定することにより、希望のトラックを希望の順に再生することができます。最大100トラックまでプログラムすることができます。
プログラム再生を行うには、再生モードをプログラム再生モードにして再生を開始してください。あらかじめプログラム設定したトラック順に再生されます。（→ 21ページ「再生モードを選択する」）

プログラムを設定する

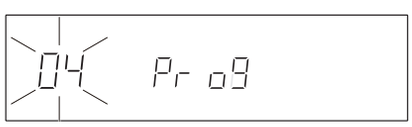
以下の手順でプログラムを設定することができます。

メモ

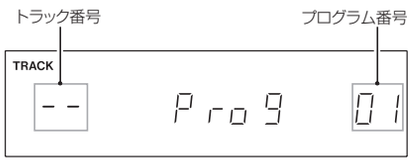
- 現在の再生モードにかかわらず、いつでもプログラムすることができます。
- 同じトラックを繰り返してプログラムできます。
- プログラム設定は、電源をオフにしても保持されます。

● 本体操作の場合：

1. 停止中に、メニュー番号**“04 Prog”**を選択します。



TRACK SKIP / DATAつまみを押してプログラム設定モードにすると、以下のように表示されます。



2. 数字ボタンまたはTRACK SKIP / DATAつまみを使って、表示中のプログラム番号に登録するトラックを選択します。
選択したトラック番号が点滅します。
3. SEARCH ►► [AUTO READY] ボタンを押すと、選択したトラックが登録され、次のプログラム番号が表示されます。
4. 上記手順2.と3.を繰り返して、希望のトラックを順次登録していきます。

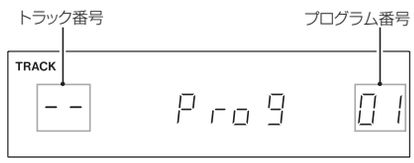
注意

トラック選択後にSEARCH ►► [AUTO READY] ボタンを押して、トラックが登録します。この操作を行わないでプログラム設定モードを終了すると、終了直前に選択したトラックが登録されません。

5. プログラム設定を終えたらTRACK SKIP / DATAつまみを押します。
プログラム設定モードを終了します。

● リモコン操作の場合：

1. 停止中に、PGMボタンを押します。
プログラム設定モードになり、以下のように表示されます。



2. 数字ボタンまたはSKIP ⏮ ／ ⏭ボタンを使って、表示中のプログラム番号に登録するトラックを選択します。
選択したトラック番号が点滅します。
3. SEARCH ►► ボタンを押すと、選択したトラックが登録され、次のプログラム番号が表示されます。
4. 上記手順2.と3.を繰り返して、希望のトラックを順次登録していきます。

注意

トラック選択後にSEARCH ►► ボタンを押すと、トラックが登録されます。この操作を行わないでプログラム設定モードを終了すると、終了直前に選択したトラックが登録されません。

5. プログラム設定を終えたら、PGMボタンを押します。
プログラム設定モードを終了します。

プログラムを確認する

停止中に上記「プログラムを設定する」の手順1.の操作によってプログラム設定モードにしたあと、以下の操作を行います。

● 本体操作の場合：

SEARCH ◄◄ ／ ►► [AUTO CUE ／ AUTO READY] ボタンを押して、トラックを確認したいプログラム番号を選択します。
プログラム番号の右に、トラック番号が表示されます。

● リモコン操作の場合：

SEARCH ◄◄ ／ ►► ボタンを使って、トラック変更をしたいプログラム番号を選択します。
プログラム番号の右に、トラック番号が表示されます。

プログラムを編集する

プログラム内容を編集することができます。
停止中に上記「プログラムを設定する」の手順1.の操作によってプログラム設定モードにしたあと、以下の操作を行います。

プログラムトラックを変更するには：

● 本体操作の場合：

1. SEARCH ◄◄ ／ ►► [AUTO CUE ／ AUTO READY] ボタンを押して、トラック変更をしたいプログラム番号を選択します。
2. 数字ボタンまたはTRACK SKIP / DATAつまみを使って、希望のトラックを選択します。
3. SEARCH ►► [AUTO READY] ボタンを押して、変更を確定します。

● リモコン操作の場合：

1. SEARCH ◄◄ ／ ►► ボタンを使って、トラック変更をしたいプログラム番号を選択します。
2. 数字ボタンまたはSKIP I◄◄ ／ ►►I ボタンを使って、希望のトラックを選択します。
3. SEARCH ►► ボタンを押して、変更を確定します。

プログラムトラックを追加するには：

● 本体操作の場合：

1. SEARCH ◄◄ ／ ►► [AUTO CUE ／ AUTO READY] ボタンを押して、トラックを追加したい位置のプログラム番号を選択します。
2. SHIFTボタンを押しながらSEARCH ►► [AUTO READY] ボタンを押します。
3. 数字ボタンまたはTRACK SKIP / DATAつまみを使って、追加したいトラックを選択します。
4. SEARCH ►► [AUTO READY] ボタンを押して、トラックの追加を確定します。

● リモコン操作の場合：

1. SEARCH ◄◄ ／ ►► ボタンを使って、トラックを追加したい位置のプログラム番号を選択します。
2. A.RDY/INSボタンを押します。
3. 数字ボタンまたはSKIP I◄◄ ／ ►►I ボタンを使って、追加したいトラックを選択します。
4. SEARCH ►► ボタンを押して、トラックの追加を確定します。

プログラムトラックを削除するには：

● 本体操作の場合：

1. SEARCH ◄◄ ／ ►► [AUTO CUE ／ AUTO READY] ボタンを押して、削除したいトラックのプログラム番号を選択します。
2. SHIFT ボタンを押しながらSEARCH ◄◄ [AUTO CUE] ボタンを押します。
   削除が実行されます。

● リモコン操作の場合：

1. SEARCH ◄◄ ／ ►► ボタンを使って、削除したいトラックのプログラム番号を選択します。
2. A.CUE/DELボタンを押します。
   削除が実行されます。

変更を終えたら：

リモコンのPGMボタンまたは本体のTRACK SKIP / DATAつまみを押して、プログラム設定モードを終了します。

プログラムトラックを全て消去するには：

プログラム設定モードのときに、本体のCLEARボタンまたはリモコンのCLEARボタンを長押しすると、プログラムが全て消去されます。

フェードイン／フェードアウト再生

CDの再生を開始するときにフェードイン、再生を停止または一時停止するときにフェードアウトすることができます。
フェードインタイムおよびフェードアウトタイム（何秒かけてフェードイン、フェードアウトを行うか）は、個別に設定できます。
メニュー番号 **“05 FADE”** を使ってフェードイン／フェードアウトの設定を行いますが、メニュー項目の操作が他のメニューと多少異なりますので、以下に操作手順を説明します。

1. メニュー番号 **“05 FADE”** を選択します。

TRACK SKIP / DATAつまみを押してフェードイン／アウト設定モードにすると、以下のように表示されます。

2. 本体のTRACK SKIP / DATAつまみ、またはリモコンのENTERボタンを押します。
フェードイン設定モードになります。

3. 本体のTRACK SKIP / DATAつまみを回す、またはリモコンのPREVボタンとNEXTボタンを使って、フェードインタイムを選択します。
フェードインを行うには、フェードインタイムを0.5秒～ 10秒（0.5秒ステップ）の中から選択します。（初期値：**“OFF”**）

4. 本体のTRACK SKIP / DATAつまみ、またはリモコンのENTERボタンを押します。
フェードイン設定が確定すると同時に、フェードアウト設定モードになります。

5. 本体のTRACK SKIP / DATAつまみを回す、またはリモコンのPREVボタンとNEXTボタンを使って、フェードアウトタイムを選択します。
フェードアウトを行うには、フェードアウトタイムを0.5秒～ 10秒（0.5秒ステップ）の中から選択します。（初期値：**“OFF”**）

6. 本体のTRACK SKIP / DATAつまみ、またはリモコンのENTERボタンを押します。
フェードアウト設定が確定すると同時に、メニューモードを終了して通常の表示に戻ります。

メモ

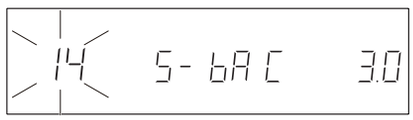
- フェードインまたはファードアウトのどちらかの設定を行うと、ディスプレー下部に **“FADE”** が点灯します。
- フェードアウトタイムだけを設定する場合は、上記手順1.のフェードイン／アウト設定モードのときに、本体のTRACK SKIP / DATAつまみを回して（またはリモコンのPREVボタンとNEXTボタンを押して）OUTが点滅する状態にしてから、本体のTRACK SKIP / DATAつまみ（またはリモコンのENTERボタン）を押すと、フェードアウト設定モードになります。
- フェードインタイムだけを設定する場合は、上記手順4.の次に本体またはリモコンのMENUボタンを押して、設定変更を終了します。
- フェードイン／アウト機能の設定は、電源をオフにしても保持されます。

スキップバック再生

再生中にあらかじめ設定した時間だけ戻って再生を行うことができます。
再生中に本体またはリモコンの ► 【PLAY】ボタンを押します。

スキップバック時間の設定

スキップバック時間の設定は、メニュー番号 **“14 S-BAC”** で設定します。（初期値：3秒）



選択肢：“OFF”、“0.0” 秒～ **“60.0”** 秒
（0.5秒単位、初期値：**“3.0”**）

注意

インクリメンタルプレー機能がオンのときは、インクリメンタルプレーが優先されスキップバック再生されません。インクリメンタルプレー機能をオフにしてください。

メモ

- スキップバック再生が行えるのは、オーディオCDのみです。データCDでは、スキップバック再生することはできません。
- スキップバック再生の設定は、電源をオフにしても保持されます。

フラッシュスタート機能

選択した曲（最大20件）または キューポイントの先頭部をあらかじめメモリーにロード（取り込み）しておくことで、瞬時に再生することができます。

曲のフラッシュロード：
プログラムが設定されていて、かつ再生モードがプログラム再生モードのときは、プログラムの最初の20件をメモリーにロードします。プログラムが設定されていないときは、トラック順に20件をメモリーにロードします。

キューポイントのフラッシュロード：
設定されているキューポイントをメモリーにロードします。

メモ

- フラッシュスタートが行えるのは、オーディオCDのみです。データCDでは、フラッシュスタートすることはできません。
- フラッシュスタート機能で再生するときには、オートキュー機能、オートレディ機能は働きません。

● **本体操作の場合：**

1. プログラムを使って曲のフラッシュスタートをする場合は、あらかじめプログラムを設定し、再生モードをプログラム再生モードにします。キューポイントのフラッシュスタートをする場合は、あらかじめ キューポイントを設定した上で、キューモードをオン（**CUE**インジケーター点灯）にします。
2. **FLASH** ボタンを押します。
3. メモリーにロードしている間、ディスプレーに **“FLASH”** の文字が点滅します。
   ロードが完了すると、ディスプレーに **“FLASH 01-10”** と表示され、**FLASH**インジケーターが点灯し、► **PLAY**インジケーターが点滅します。
4. 再生したいプログラム番号（プログラム設定時）、トラック番号（プログラム未設定時）、またはキュー番号（キューポイントのフラッシュスタートの時）の数字ボタンを押します。11 ～ 20 を選択したい場合は、**+10** ボタンを押して、ディスプレーに **“FLASH 11-20”** と表示させてから、番号の一の位の数字ボタンを押します。再度、**+10** ボタンを押すと **“FLASH 1-10”** に戻ります。

● **リモコン操作の場合：**

1. プログラムを使って曲のフラッシュスタートをする場合は、あらかじめプログラムを設定し、再生モードをプログラム再生モードにします。キューポイントのフラッシュスタートをするには、あらかじめ本体で キューポイントを設定した上で、キューモードをオン（**CUE**インジケーター点灯）にします。
2. **FLASH**ボタンを押します。
3. メモリーにロードしている間、ディスプレーに **“FLASH”** の文字が点滅します。
   ロードが完了すると、ディスプレーに **“FLASH 01-10**” と表示され、**FLASH**インジケーターが点灯し、► **PLAY**インジケーターが点滅します。
4. 再生したいプログラム番号（プログラム設定時）、トラック番号（プログラム未設定時）、または キュー番号（キューポイントのフラッシュスタートの時）の数字ボタンを押します。11 ～ 20 を選択したい場合は、**CLEAR**ボタンを押して、ディスプレーに **“FLASH 11-20”** と表示させてから、番号の一の位の数字ボタンを押します。再度、**CLEAR**ボタンを押すと **“FLASH 01-10**” に戻ります。

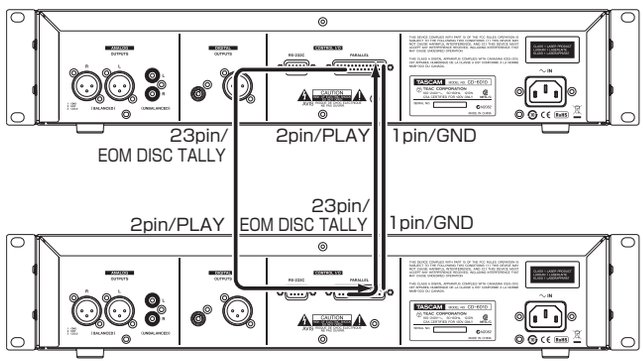
フラッシュスタートモードを解除したい場合には

本体またはリモコンの**FLASH**ボタンを押します。本体の**FLASH**インジケーターが消灯します。

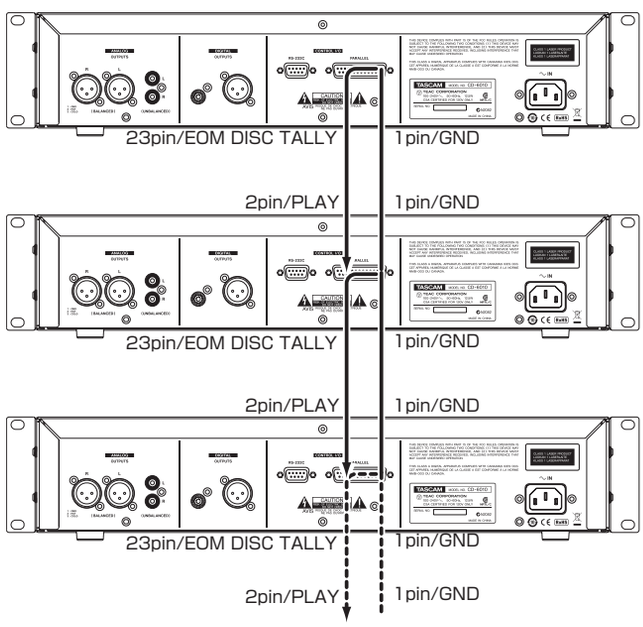
リレー再生

複数台のCD-6010間で、1台が再生を終了すると別の1台が自動的に再生を開始するように設定することができます。
これを行うには、CD-6010のリアパネルにある**CONTROL I/O PARALLEL**端子の **“23 EOM DISC TALLY”** ピンを、別のCD-6010のリアパネルにある**CONTROL I/O PARALLEL**端子の **“2 PLAY”** ピンにケーブルで接続し、各CD-6010のDISC EOM設定を **“0”** に設定します。（ → 30ページ「ディスクの終了を予告する（DISC EOM）」）

下図のように2台のCD-6010間で双方向の接続を行うと、2台間の交互再生が可能になります。



また、下図のように3台以上のCD-6010の**CONTROL I/O PARALLEL “2 PLAY”** ピンと**CONTROL I/O PARALLEL “23 EOM DISC TALLY”** ピンを「じゅずつなぎ」接続することにより、CD-6010を次々と再生することも可能です。



再生時間表示モードを切り換える

ディスプレーに表示される再生時間の表示モードを選択することができます。
再生中または一時停止中に、本体のDISPLAY [LOCK] ボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを押します。ボタンを押すたびに3種類の時間表示が切り換わります。現在選ばれている表示モードは、再生時間表示モード表示部に点灯表示されます。

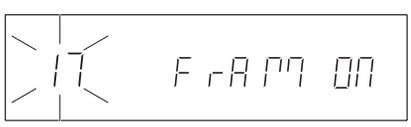
- **“T. REMAIN”** が点灯：総残時間を表示します。
- **“REMAIN”** が点灯：現在のトラックの残時間を表示します。
- 点灯無し：現在のトラックの経過時間を表示します。

メモ

- オーディオCD停止中は、**“T. REMAIN”** の点灯状態にかかわらず、常にディスクの総収録時間を表示します。
- データCDの場合は、停止中の総時間、再生中の残時間および総残時間が表示されません（トラック数あるいはトラック番号のみが表示されます）。
- プログラム再生モードのときはプログラム再生終了までの残り時間、シングル再生モードのときはトラックの残り時間が表示されます。
- プログラム再生モードのときは、総プログラム時間を表示します。
- 再生時間表示モードの設定は、電源をオフにしても保持されます。

フレーム時間表示の設定

再生しているときに、フレーム単位まで表示するかどうかを設定します。
フレーム時間表示の設定は、メニュー番号 **“17 FRAM”** で設定します。（初期値：**“ON”**）

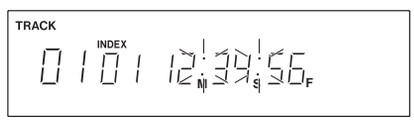


メモ

フレーム時間表示機能のオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

トラックの終了を予告表示する（TRACK EOM）

トラックの終了が近づいたときに、ディスプレー内に終了予告を表示したり、CONTROL I/O PARALLELの **“21 EOM TRACK TALLY”** 信号を出力することができます。なお、データCDでは、ディスプレーへの終了予告表示はできません。また、CONTROL I/O PARALLELの **“21 EOM TRACK TALLY”** 信号の出力はファイル再生完了時のパルス出力となります。
終了の何秒前に予告表示を出すかをあらかじめ設定しておくことにより、その時間が来ると再生時間表示部の時間桁を区切る **“ : ”** が点滅します。また同時に、CONTROL I/O PARALLELの **“21 EOM TRACK TALLY”** 信号が出力されます。



EOM機能の設定時間は、メニュー番号 **“10 EOM_T”** で設定します。

選択肢：“OFF”、**“0”**、**“5”**、**“10”**、**“15”**、**“20”**、**“25”**、**“30”**（初期値）、**“35”**

“OFF” 以外の値は、終了の何秒前に予告表示を出すかを示す値です。但し、**“0”** を設定した場合は画面には予告表示はされず、トラックの再生が終了したときにCONTROL I/O PARALLELの **“21 EOM TRACK TALLY”**信号がパルスで出力されます。初期値では、トラック終了の30秒前から **“ : ”** が点滅し、CONTROL I/O PARALLELの **“21 EOM TRACK TALLY”** 信号が出力されます。

メモ

TRACK EOM機能の設定時間は、電源をオフにしても保持されます。

ディスクの終了を予告する（DISC EOM）

ディスクの終了が近づいたときに、CONTROL I/O PARALLELの **“23 EOM DISC TALLY”** 信号を出力することができます。
終了の何秒前に予告表示を出すかをあらかじめ設定しておくことにより、その時間が来るとCONTROL I/O PARALLELの **“23 EOM DISC TALLY”** 信号が出力されます。

EOM機能の設定時間は、メニュー番号 **“06 EOM_D”** で設定します。

選択肢：“OFF”、**“0”**、**“5”**、**“10”**、**“15”**、**“20”**、**“25”**、**“30”**（初期値）、**“35”**

“OFF” 以外の値は、ディスク終了の何秒前に予告を出力するかを示す値です。但し、**“0”** を設定した場合はディスクの再生が終了したときにCONTROL I/O PARALLELの **“23 EOM DISC TALLY”** 信号がパルスで出力されます。

メモ

DISC EOM機能の設定時間は、電源をオフにしても保持されます。

インターバルタイムの設定

曲の再生が終了した後、設定した待ち時間（インターバルタイム）を経過した後に、次の曲を再生するようにすることができます。
インターバルタイムの設定は、メニュー番号 **“16 INTVAL”** で設定します。

1. メニュー番号 **“16 INTVAL”** を選択します。

2. TRACK SKIP / DATAつまみを押してインターバルタイム設定モードにすると、以下のように表示されます。

3. TRACK SKIP / DATAつまみを回してインターバルタイムを設定し、TRACK SKIP / DATAつまみを押して確定します。
   選択肢：0 ～ 5分（10秒単位、初期値：0秒）

メモ

インターバルタイムの設定は、電源をオフにしても保持されます。

モノラルで出力する

アナログおよびデジタルの出力信号を、モノラルにすることができます。
出力信号をモノラルにするには、メニュー番号 **“08 Mono”** を **“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）

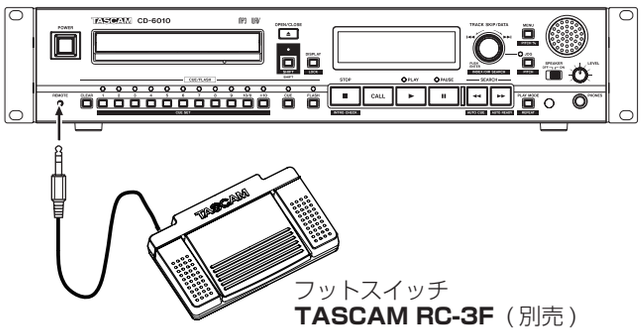
モノラル出力モードをオンにすると、ディスプレー下部に **“MONO”** が点灯します。

メモ

モノラル出力モードのオン／オフ設定は、電源をオフにしても保持されます。

フットスイッチによるコントロール

フロントパネルの**REMOTE**端子に接続した別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を使って、本機を操作することができます。



フットスイッチ
TASCAM RC-3F（別売）

フットスイッチを設定する

フットスイッチの設定は、メニュー番号 **“18 REMOT”** で設定し、スイッチ（ペダル）への機能の割り当てを選択することができます。

選択肢：“OFF”、“1（初期値）**”、“2”、“3”、“4”**

フットスイッチを使う

フットスイッチの各ペダルを踏むと、メニュー番号 **“18 REMOT”** で割り当てられた動作を行います。

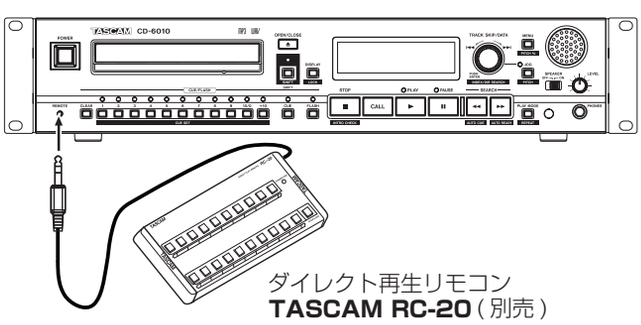
各MODEの詳細

各MODEの詳細は、下記の通りです。

MODE	フットスイッチ		
	L（短押）	C（短押）	R（短押）
	L（長押）	C（長押）	R（長押）
1	⏮	PALY/PAUSE	⏭
	◀◀	STOP	▶▶
2	SKIP BACK	PLAY/PAUSE	CALL
	◀◀	STOP	▶▶
3	PITCH（−）	PLAY/PAUSE	PITCH（+）
	PITCH（−）連続	STOP	PITCH（+）連続
4	PAUSE	PLAY	STOP
	− − −	− − −	− − −

ダイレクト再生リモコンによるコントロール

フロントパネルの**REMOTE**端子に接続した別売の専用ダイレクト再生リモコン（TASCAM RC-20）を使って、ダイレクト再生（ポン出し）操作をすることができます。



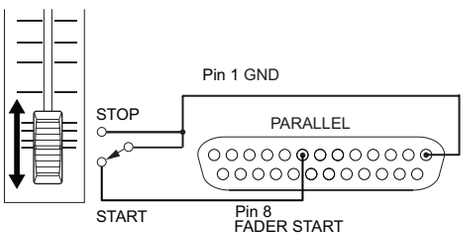
ダイレクト再生リモコン
TASCAM RC-20（別売）

フェーダースタート／イベントスタート

フェーダースタート／ストップ

外部のフェーダースイッチをCONTROL I/O PARALLEL端子に接続することにより、フェーダースタート／ストップが可能になります。

フェーダーのスイッチとCD-6010のCONTROL I/O PARALLEL端子間を以下のように接続します。



CONTROL I/O PARALLEL端子の詳細については、「パラレル端子を使う」（33ページ）をご覧ください。

イベントスタート

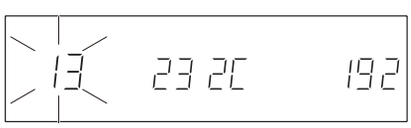
停止中または一時停止中に外部からのワンショットパルス信号を入力することにより、再生を始めることができます。
CONTROL I/O PARALLEL端子の **“2 PLAY”** ピンにワンショットパルス（アクティブロー、30ms 以上）を入力します。

RS-232C端子を使う

CONTROL I/O RS-232C端子（D-sub 9ピン、RS-232C準拠）を使って、外部（パソコンなど）から本機をシリアルコントロールすることができます。

ボーレートの設定

メニュー番号 **“13 232C”** を使って、ボーレートを設定することができます。**“96”**（9600bps、初期値）、**“192”**（19200bps）、**“384”**（38400bps）の中から選択します。
詳細については、カスタマーサポートまでお問合せください。



メモ

ボーレートの設定は、電源をオフにしても保持されます。

出荷時の設定に戻す

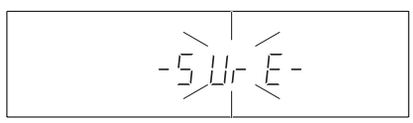
本機のバックアップメモリーに保存されている各設定情報を工場出荷時の状態に戻すことができます。
バックアップメモリーに保存されている設定情報は、以下の情報です。

- 再生モード設定
- 再生時間表示モード設定
- オートレディ機能のオン／オフ設定
- オートキュー機能のオン／オフ設定
- キュー設定
- リピート機能のオン／オフ設定
- 各メニュー設定
  （→ 17ページ「メニューの構成」）

出荷時の設定に戻すには

1. メニュー番号 **“20 RESET”** を選択します。

2. TRACK SKIP / DATAつまみを押すと、ディスプレーに **“-SURE-”** が点滅します。



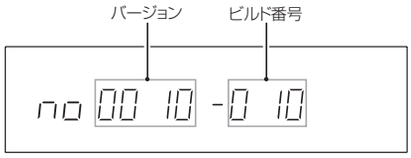
3. 本体のTRACK SKIP / DATAつまみ、またはリモコンのENTERボタンを押します。
   バックアップメモリーが工場出荷時の設定に戻り、メニューモードが終了してディスプレーが通常の表示に戻ります。

ファームウェアバージョンを確認する

ファームウェアのバージョンを確認するには、メニュー番号 **“21 INFO”** で確認します。

1. メニュー番号 **“21 INFO”** を選択します。

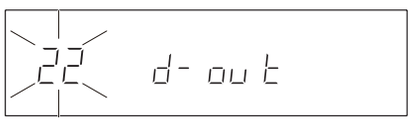
2. 本体の**TRACK SKIP / DATA**つまみ、またはリモコンの**ENTER**ボタンを押すと、ディスプレーにシステムのファームウェアバージョンを表示します。



3. 再度、本体の**TRACK SKIP / DATA**つまみ、またはリモコンの**ENTER**ボタンを押すと、メニューモードが終了してディスプレーが通常の表示に戻ります。

デジタル出力フォーマットの設定

DIGITAL OUTPUTS端子(COAXIAL、XLR)からのデジタル出力の信号フォーマットを設定します。
デジタル出力の信号フォーマットは **“SPD”**（S/PDIF: コンシューマー）、**“AES”**（AES/EBU [Uビット有り]: プロフェッショナル、初期値）、**“AE_”**（AES/EBU [Uビット無し]: プロフェッショナル）から選択でき、メニュー番号 **“22 D-OUT”** で設定します。（初期値: **“AES”**）



メモ

デジタル出力フォーマットの設定は、電源をオフにしても保持されます。

アナログ出力のアッテネーション

本機のアナログ出力レベルに -4dBのアッテネーションをかけるかどうかを設定します。本機の出力を接続する機器に合わせて設定してください。
本機のアナログ出力レベルに -4dBのアッテネーションをかけるかどうかの設定は、メニュー番号 **“19 ATT”** で設定します。（初期値 **“OFF”**）

メモ

アッテネーションの設定は、電源をオフにしても保持されます。

パラレル端子を使う

CONTROL I/O PARALLEL端子を使って、外部のコントローラーから本機をパラレル制御することができます。

ピン番号	機能 (Pin 14 = H or Open)	機能 (Pin 14 = L)	IN / OUT
1	GND	GND	-
2	PLAY	FLASH 1	In
3	STOP	FLASH 2	In
4	INDEX / DIR SEARCH FWD	FLASH 3	In
5	TRACK SKIP FWD [►►I]	FLASH 4	In
6	TRACK SKIP REV [I◄◄]	FLASH 5	In
7	INDEX / DIR SEARCH REV	STOP / LOAD	In
8	FADER START / STOP	(Reserved)	In
9	FLASH LOAD TALLY	FLASH LOAD TALLY	Out
10	PAUSE TALLY	PAUSE TALLY	Out
11	NO DISC TALLY	(Reserved)	Out
12	STOP TALLY	STOP TALLY	Out
13	PLAY TALLY	PLAY TALLY	Out
14	REMOTE SELECT **	REMOTE SELECT **	In
15	PAUSE	FLASH 6	In
16	CALL	FLASH 7	In
17	SEARCH FWD [►►]	FLASH 8	In
18	SEARCH REV [◄◄]	FLASH 9	In
19	(Reserved)	FLASH 10	In
20	(Reserved)	FLASH PAGE ***	In
21	EOM TRACK TALLY	EOM TRACK TALLY	Out
22	(Reserved)	(Reserved ハイ固定)	Out
23	RELAY OUT (EOM DISC TALLY)	(Reserved)	Out
24	(Reserved)	(Reserved ロー固定)	Out
25	+5V *	+5V *	-

In: 外部コマンド受信（アクティブロー、グランド 30msec以上で動作）

Out: オープンドレインによるトランスポートステータス表示用信号（耐圧 20V、最大電流 35mA、インピーダンス 10Ω）

＊ 最大供給電流 100mA

＊＊ ピン14（REMOTE SELECT）

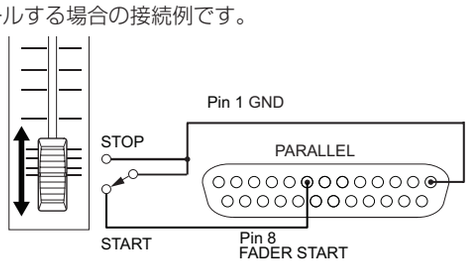
ピン14がハイもしくはオープンのとき、上記表の左列の機能が有効になり、通常のパラレルコントローラーとして使用する事ができます。
ローのとき、上記表の右側列の機能が有効になり、フラッシュスタートキーとして使用することができます。

＊＊＊ ピン20（FLASH PAGE）

ピン14（REMOTE SELECT）がローのとき、ピン20のハイ／ロー状態によって、割り当てトラックが以下のようになります。

#14	#20	フラッシュスタートトラック
ロー	ハイ	1 ～ 10
ロー	ロー	11 ～ 20

以下は、フェーダースタート／ストップによって、本機の再生をコントロールする場合の接続例です。



第８章　トラブルシューシング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

● 電源が入らない。

↓

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。

● 本体で操作できない

↓

- パネルロック機能がオンになっていませんか？

● リモコンから操作できない。

↓

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか?

● 音が出ない。

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。また、アンプの音量を確認してください。

● CDを再生できない。

- MP3ファイルを収録したデータCDの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。
- ディスクに傷やよごれが付いていませんか?

● 雑音がする。

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていないか、確認してください。

第９章　エラーメッセージ一覧

以下のエラーメッセージが表示されたときは、対処方法を参考に原因を解消してください。それでも改善しない場合は、ティアック修理センターにご相談ください。

メッセージ	内容	対処
Err01	TOC Read Error	ディスクをクリーニングするか、交換してください。
Err09	Flash ROM Error	これらのエラーが表示された場合は、電源を入れなおしてください。 電源を切ることができない場合は、電源コードを取り外してください。
Err10	SDRAM Error	
Err13	SYSTEM Error	

第 10 章　仕様

定格

形式
CDプレーヤー

使用ディスク
コンパクトディスク（12cm / 8cm、CD-R DISC 対応）

再生可能ディスク
CD-DA、CD-ROM ISO9660 LEVEL 1/2/JOLIET format

再生可能フォーマット
オーディオCD（CD-DA）、MPEG Audio Layer III（MP3）、WAV

MP3再生仕様
フォーマット：STEREO/MONO
サンプリング周波数：32kHz/44.1kHz/48kHz
ビットレート：32kbps ～ 320kbps、およびVBR

WAV再生仕様
サンプリング周波数：32kHz/44.1kHz/48kHz
量子化ビット数：16bit

オーディオCD再生仕様
サンプリング周波数：44.1kHz
量子化ビット数：16bit
チャンネル数：2

アナログオーディオ出力定格

ANALOG OUTPUTS端子（UNBALANCED）
コネクター：RCAピンジャック
出力インピーダンス：200Ω
規定出力レベル：−10dBV（0.32Vrms）
最大出力レベル：+6dBV（2.0Vrms）

ANALOG OUTPUTS端子（BALANCED）
コネクター：XLR-3-32（1：GND、2：HOT、3：COLD）
出力インピーダンス：100Ω
規定出力レベル：+4dBu（1.23Vrms）
最大出力レベル：+24dBu（12.28Vrms）

PHONES端子
コネクター：6.3mm（1/4'）ステレオ標準ジャック
最大出力レベル：45mW+45mW以上
（THD+N 0.1%以下、32Ω負荷）

デジタルオーディオ出力定格

DIGITAL OUTPUTS端子 (COAXIAL)
コネクター：RCAピンジャック
対応信号フォーマット：IEC60958-3民生用規格準拠、
IEC60958-4業務用規格準拠
出力インピーダンス：75Ω
出力レベル：0.5Vp-p

DIGITAL OUTPUTS端子(XLR)
コネクター：XLR-3-32（1：GND、2：HOT、3：COLD）
対応信号フォーマット：IEC60958-3民生用規格準拠、
IEC60958-4業務用規格準拠
出力インピーダンス：110Ω

コントロール入出力定格

REMOTE端子
コネクター：2.5mmTRSジャック

RS-232C端子
コネクター：D-sub 9ピン（メス型、インチ規格）

CONTROL I/O PARALLEL端子
コネクター：D-sub 25ピン（メス型、インチ規格）

オーディオ性能

周波数特性
20Hz - 20kHz：±0.5dB（JEITA）

S/N比
95dB以上（JEITA）

ダイナミックレンジ
95dB以上（JEITA）

歪率
0.005%以下（JEITA）

チャンネルセパレーション
95dB以上（1kHz、JEITA）

バックアップメモリー

本機は、電源をオフにしても、以下の設定をバックアップします。

- 再生モード設定
- 再生時間表示モード設定
- オートレディ機能のオン／オフ設定
- オートキュー機能のオン／オフ設定
- キュー設定
- リピート機能のオン／オフ設定
- 各メニュー設定

一般

電源

AC100-240V、50-60Hz

消費電力

12.5W

外形寸法

483 x 94 x 306mm（幅 x 高さ x 奥行き）

質量

4.9kg

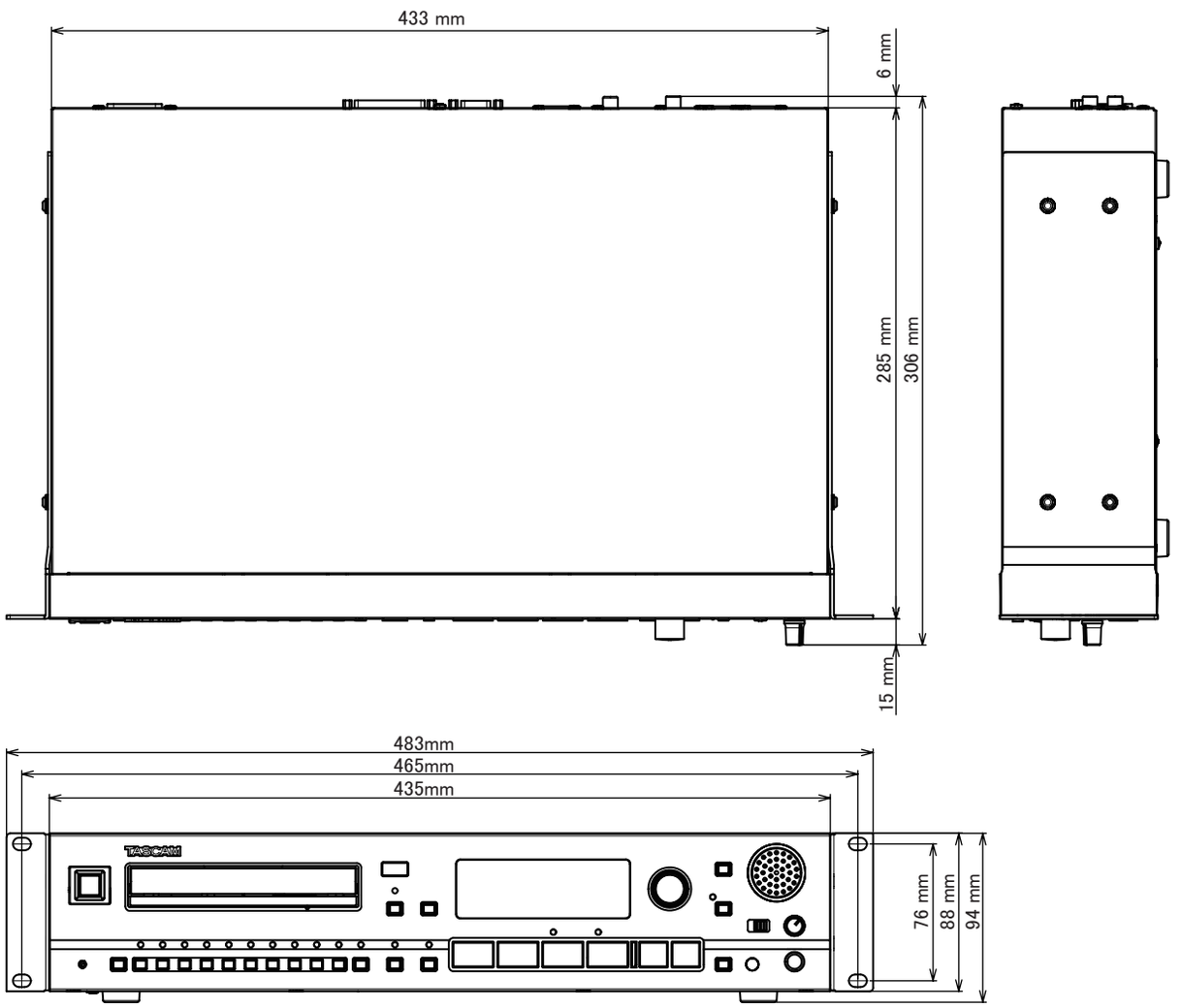
動作温度

5 ～ 35℃

設置時傾斜

15度以内

寸法図



＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

Memo

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 ／ 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026　埼玉県入間市小谷田 858

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

市内通話料でOK ナビダイヤル

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://tascam.jp/

Printed in China